

群を抜け 駆ける 世界を

GUNMA
UNIVERSITY

平成30年度版

国立大学法人

群馬大学概要

Contents

学長からのメッセージ	1
------------	---

特集編

GU Topic 01 数理データ科学教育研究センター・食健康科学教育研究センターの設置	2
GU Topic 02 次世代モビリティ社会実装研究センター	3
GU Topic 03 グローバルフロンティアリーダー（GFL）育成プログラム	4
GU Topic 04 「まゆだまプラン-アドバンスト」女性研究者がつながり紡ぐイノベーション	5

概要編

学部	6 - 7
大学院・専攻科	8 - 10
附属施設	
教育学部附属学校、医学部附属病院	11
教育・研究関連施設等	
生体調節研究所、総合情報メディアセンター	12
大学教育・学生支援機構	13
研究・産学連携推進機構	14
重粒子線医学推進機構	15
学内共同教育研究施設等、共同研究拠点等	16
国際交流	17
地域・社会との連携	18

資料編

目次	19
目次	20
基本理念、目標	21
群馬大学の教育ポリシー	22 - 23
歴代学長、沿革	24 - 25
管理運営組織、事務組織	26
教育・研究組織	27
役員及び主な役職者等	28 - 29
学生の数	30 - 31
入学志願状況等、学部入学者の出身地区別内訳	32
卒業・修了者数・学位授与者数	33
卒業後の状況	34
国際交流	35 - 37
附属施設	38
主な教育研究補助金採択状況	39
地域貢献事業一覧、公開講座、開放講座	40
収入・支出予算額、研究費等受入状況	41
土地・建物面積、学部等所在地分布図	42
学部等所在地	43
建物配置図（荒牧地区、昭和地区）	44
建物配置図（桐生地区、太田地区）	45
交通アクセス（荒牧、昭和、若宮、上沖地区）	46
交通アクセス（桐生、太田地区）	47
学生歌、大学徽章・ロゴマーク	48
認証評価認定マーク	49



群馬大学長 **平塚 浩士**
Hiroshi Hiratsuka

群馬大学は、伝統を活かし、地域と共に、知的な創造を通じて世界の最先端へとチャレンジし、21世紀を切り拓いて行く大学を目指しています。

グローバル化、多様化する日本社会が直面する課題を大学がいかに解決するのか、大学の真価が問われている今、地域社会の多様なニーズへ対応するため、平成29年5月、国際教育・研究センターの機能を強化する形で、学長の直下に、国際センターを立ち上げました。今後、国際センターを中心に地域に根ざした本学の新しい国際化の取組を推進します。

また、現在、日本社会はサイバー空間と現実空間が融合する超スマート社会へ移行するという『大変革の時代』にあります。従来型の社会が大きく変化している中、新しい社会の基盤となるのは、最先端の技術開発や未来を担う人材です。本学では、こうした社会の変化に対応すべく、従来の学部の垣根を超えた全学的な取組として、平成28年12月に次世代モビリティ社会実装研究センターを、さらに、平成29年12月に数理データ科学教育研究センター及び食健康科学教育研究センターを設置しました。

数理データ科学教育研究センターでは、超スマート社会 (society5.0) に対応する基盤的な教育研究を実施します。食健康科学教育研究センターでは、全国有数の農業県の強みを活かし、地域産業の振興や健康寿命の延伸に貢献し、地方創生を目指します。

完全自律型自動運転技術を用いた新たな交通システムの研究の推進を図るため設置した次世代モビリティ社会実装研究センターでは、平成29年度末に荒牧キャンパスに研究施設が完成しました。地域の企業や自治体との協力関係をもとに地域社会が抱える課題解決への貢献に積極的に取り組んでいきます。

このように、群馬大学の持つリソースを結集させ、強みを活かした大学の機能強化を推進し、知的創造を基盤とした優れた教育・研究・診療・社会貢献の諸活動を展開し、地域に根ざし、世界に通用する大学づくりを進めていきます。

数理データ科学教育研究センター・食健康科学教育研究センターの設置



JA実証農場視察の様子



セミナーの様子



研究活動の様子

(数理データ科学教育研究センター) 超スマート社会の実現を目指して

第4次産業革命や超スマート社会(Society 5.0)と謳われる社会を支える革新的基盤技術である人工知能・ビッグデータ、IoT、統計手法等のデータ利活用技術が経済発展の鍵を握る中、これら革新的技術を担うデータサイエンティストや情報セキュリティに強い人材の育成が喫緊の課題となっています。今やどの産業分野においてもデータ(情報)の利活用は必須で、どのような職に就いてもデータ利活用のリテラシーが必要です。

本センターは、超スマート社会(Society 5.0)の実現に向けて、本学の特色である実データを用いた数理データ科学や情報数理に係る教育研究を実施することを目的に、平成29年12月に設置しました。センター内の「情報数理ユニット」「データ科学ユニット」が連携して教育研究に取り組むことで、社会において実践的に活躍するための数理的思考力を持った人材の育成、ICTを活用した教育手法の開発研究及びビッグデータを含む実データを用いた実践的な研究等を進めます。

(食健康科学教育研究センター) 地域産業の振興と健康寿命の延伸を目指して

近年の食品業界のニーズは、健康志向の年々の増加を受けて「健康・美容」などの展開が図られており、食の機能性のエビデンスベースでの評価等による高付加価値化への取組は益々期待されています。

本センターは、本学が有する食の安全安心に係る分析機能、生活習慣病の予防開発機能、食品開発・先端加工・製造技術の教育研究機能、食育、健康志向、ブランディングの教育研究機能等、文理の広い分野において食と健康に係る教育研究及び地域貢献に資する機能を活かし、地方自治体及び産業界等と連携して教育研究に取り組むため、平成29年12月に設置しました。本センターでは、県内農作物を用いたエビデンスベースの高機能食品の開発、ブランド化、食品残渣の高度利用・輸出促進等を通じて、これまで本学が力を入れてきた地域貢献をより一層推進し、地域産業の振興及び健康寿命の延伸に寄与します。

次世代モビリティ社会実装研究センター



電動コミュニティビークル eCOM-10



管制・遠隔操縦設備室



eCOM-10 運転席



センター外観

荒牧キャンパスに研究施設を建設、2018年4月本格的に活動スタート！

2016年12月に設置した「次世代モビリティ社会実装研究センター（CRANTS）」は、完全自律型自動運転の車両を研究・開発するだけでなく、それを用いたシステムを社会で実践するために社会システムの研究・実証・普及を目的とした研究組織です。

CRANTSの活動を本格化させるための研究施設を荒牧キャンパスに建設し、2018年4月から本格的に活動をスタートすることになりました。

この研究施設には、車両整備開発室、管制・遠隔操縦設備室、データセンター、シミュレーション室など、自動運転の研究・開発に必要な設備を備える他、企業の方々にご利用いただく研究室があります。また公的研究機関世界最大規模（約6,000㎡）の専用試験路が併設されており、その試験路上で可動式の道路要素（信号、標識など）を移動させることで多様な道路環境を作り出し、様々な技術課題に対応した実験を行うことができます。CRANTSは自動運転車両に改造された乗用

車やバス、トラック、一人乗りの小型車両など多種多様な車両を所有しており、各連携企業と実施する公道実証実験等でも使用しています。その実験で得られたデータは様々な角度から分析され、完全自動運転の早期社会実装を実現するために生かされます。

完全自動運転システムは、社会の交通システムを根本から変えてしまう可能性を持つものです。CRANTSは完全自動運転の車両を研究・開発するだけでなく、それを用いたシステムの社会実践を目指して地域企業・自治体と協働して研究に取り組んでいます。



竣工式

グローバルフロンティアリーダー（GFL）育成プログラム



GFLティーン大学短期留学プログラム



グローバル交流セミナー・サマーセミナー



成果報告会(発表風景)



成果報告会(集合写真)

平成31年度入試から社会情報学部、理工学部の推薦入試において「GFL特別枠」を導入！

群馬大学では、本学の学生が「自国及び他国の文化・歴史・伝統を理解し、外国語によるコミュニケーション能力を持ち、国内外において主体的に活動できる人」となるよう、グローバルフロンティアリーダーの育成に力を入れています。その一環として、グローバルフロンティアリーダー（GFL）育成プログラムを設置し、教育学部と社会情報学部が連携した「教育・社情グローバルフロンティアリーダー（GFL）育成コース」、及び医学部と理工学部が連携した「医理工グローバルフロンティアリーダー（GFL）育成コース」の2コースにより、幅広い教養・外国語コミュニケーション能力の修得

を中心とした教育を行うとともに、海外留学の経験を通して広い視野を持つ学生を育てています。

社会情報学部及び理工学部の2学部では、グローバルフロンティアリーダー（GFL）育成プログラムを入学時から取り組める体制を構築することを目的に、平成31年度推薦入試より「GFL特別枠」を導入します。

この特別枠での合格者は、本学の「卓越学生に対する授業料免除制度」の優先的適用の対象者となるとともに、1年次前期からGFLコースに所属して、短期海外研修へ参加することになります。

「まゆだまプラン-アドバンスト」女性研究者がつながり紡ぐイノベーション



好評な各種研究力アップ講座



近隣の放課後児童クラブとの連携

多様性を活かし個性と能力が発揮できる大学をめざして

群馬大学は、学生も含め次世代を担う優秀な人材育成に取組、多様性を尊重し、個性と能力を力いっぱい発揮できる就学・就労環境の向上を目指しています。

文部科学省女性研究者研究活動支援事業「まゆだまプラン」(平成25-27年度)の実施から、文部科学省ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ事業の採択を受けての「まゆだまプラン-アドバンスト」(平成29-34年度)へと途切れることなく事業を継承し、現在、次の3つの目標の達成に向けて取り組んでいます。

(1) 優秀な女性研究者の採用と上位職増加

女性研究者在籍比率20%の早期達成のために、各学部等に対して採用計画に基づく進捗状況を確認しています。また、意識啓発のためのシンポジウムやFDセミナー、大学幹部を囲んだ「まゆだまランチミーティング」等を開催しています。

(2) ネットワークの構築とイノベーションの創出

研究力アップに役立つ各種セミナーの開催や県内高等教育機関との地域連携に力を入れており、平成28年「ぐんまダイバーシティ推進地域ネットワーク(現在14機

関賛同)」を立ち上げて活動しています。新設した本ネットワークのウェブサイトでは、賛同機関の女性研究者のシーズ集も掲載しています。

(3) 魅力ある環境整備と継続させる好循環の構築

研究活動の支援充実や近隣の放課後児童クラブへ構内の一部を開放し、ボランティア体験を教育学部の講義に位置づける等、両立可能な環境整備を進めています。

本学では「まゆだま」は、今や男女共同参画のキーワードとなり、学長のリーダーシップの下、平成25年度から34年度を「まゆだまの10年」と位置付け、男女共同参画推進室が中心となって意欲的に活動が行われています。そして、この取組が評価され、平成27年5月には、県内の教育機関で初めて子育てしやすい事業所として厚生労働省群馬労働局より認定マーク「くるみん」を取得しました。各キャンパスの交流拠点である「まゆだま広場」は、育児・介護にも配慮し、支援に関する情報提供の場として機能しています。なお、両立支援アドバイザーによる両立相談は、年間250件(男性38件含む)を超え効果をあげています。

教育学部 (荒牧地区)

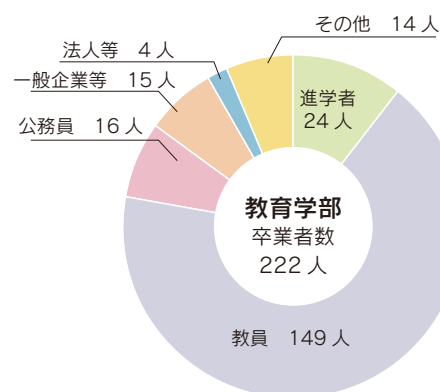
教育学部は、新しい時代の学校教育を担う教員、中でも小学校・中学校・特別支援学校の教員を養成することを主な目的としている。学校教育をめぐる多様な課題について、柔軟かつ効果的に取り組むことのできる高度な専門的知識・技術と豊かな人間性を身に付けた実践的指導力のある教育者の養成を目指している。

課 程	系	専 攻	講 座
学校教育教員養成課程	文化・社会	国語、社会、英語	国語教育、社会科教育、英語教育
	自然・情報	数学、理科、技術	数学教育、理科教育、技術教育
	芸術・表現	音楽、美術	音楽教育、美術教育
	生活・健康	家政、保健体育	家政教育、保健体育
	教育人間科学	教育、教育心理、障害児教育	学校教育、障害児教育



教育実習

学部卒業者の進路状況



社会情報学部 (荒牧地区)

高度情報社会の到来によって、我々の日常生活はもとより、社会のあらゆる分野に大きな変化がもたらされた。この変化を多角的・総合的に把握し、そこに発生する各種の問題を解決するためには、細分化されている既存の学問では対応しきれない。本学部では、情報科学、人文科学、社会科学、環境科学といったさまざまな分野の専門家が互いの研究成果を融合させることで、高度情報社会の諸問題の解決策を探究している。

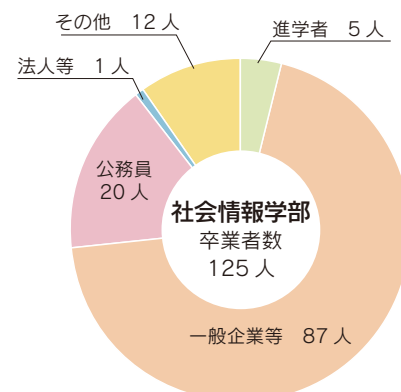


学生が制作・編集した「学部紹介パンフレット」

学 科	専門科目	特別選抜 (入学後)
社会情報学科	● コア科目 社会情報学入門科目、メディア科目、コミュニケーション科目、情報科目	
	● リサーチスキル科目 研究方法科目、データ解析科目、情報処理スキル科目	データ解析プログラム (10名)
	● コミュニケーション科目 外国語コミュニケーション科目、表現スキル科目	教育・社情GFLコース (10名)
	● プロジェクト科目	
	● ディレクション科目 メディアと文化、公務と法律、経済と経営	

GFL：グローバルフロンティアリーダー

学部卒業者の進路状況



医学部(昭和地区)

医学科は、医学と医療が自然科学の上に成り立ち、かつ社会の中で人を対象として行われるものであることを理解し、科学的知(Science)、倫理(Ethics)、技能(Skill)の3つの面(SES)にわたって生涯自己研鑽を続けることができる人材の育成を目的としている。この目的を達成するために、SESを掲げたアウトカム基盤型教育を推進し、「生涯自己研鑽を続けることができる、優れた医師、医学研究者、医療行政官、医学教育者」の養成に努め、医学・医療と地域社会に貢献することを目指している。

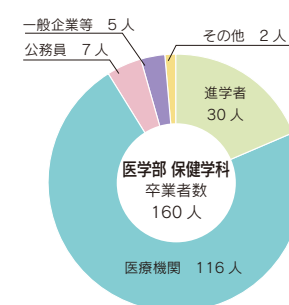
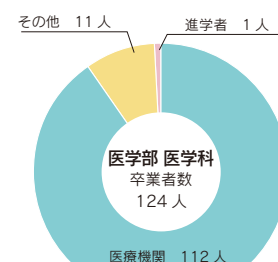
保健学科では、「高度化・専門化する保健医療の担い手となる、看護師、保健師、助産師、臨床検査技師、理学療法士及び作業療法士の育成」、「医療技術の学問体系の確立と発展に寄与しうる専門職の育成」、「チーム医療においてリーダーシップを発揮できる人材の育成」、「国際社会で活躍できる専門職の育成」の4つの理念・目的を達成するため、総合的で先進的な保健学教育・研究を展開している。

課 程		講 座 等
医学科		基礎医学教育部門、臨床医学教育部門、医学教育政策・支援部門
保健学科	看護学専攻	看護学講座
	検査技術科学専攻	検査技術科学講座
	理学療法学専攻	理学療法学講座
	作業療法学専攻	作業療法学講座
		医療基礎学講座



実習風景

学部卒業者の進路状況



理工学部(桐生地区)

理学に根ざした俯瞰的な物の見方、考え方を身に付け、工学に根ざした実践的・独創的な課題解決能力を養う理工学教育を行い、個人の発想や知的好奇心を尊重し、未知の分野に挑戦する活力と創造性を育むとともに、国際コミュニケーション能力を備え、世界を舞台に研究者・技術者として活躍できる人材を育成することを目的としている。

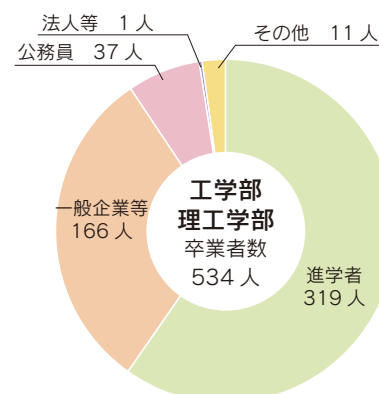
学 科	分 野
化学・生物化学科	基礎理学系分野、化学・生物学統合分野、物質科学分野、生物科学分野、計測科学分野
機械知能システム理工学科	基礎理学系分野、機械知能システム理工学統合分野、エネルギーシステム分野、マテリアルシステム分野、メカトロニクス分野、インテリジェントシステム分野
環境創生理工学科	基礎理学系分野、環境創生理工学統合分野、社会基盤工学分野、化学工学分野、環境科学分野
電子情報理工学科	基礎理学系分野、電子情報理工学統合分野、電子デバイス分野、電気工学分野、情報処理・通信分野、計算機科学分野
総合理工学科※	基礎理学系分野、化学・生物学統合分野、機械知能システム理工学統合分野、環境創生理工学統合分野、電子情報理工学統合分野

※夜間主コース（フレックス制）



化学・生物化学実験

学部卒業者の進路状況



教育学研究科 (荒牧地区)

教育学研究科には、修業年限が2年の修士課程と専門職学位課程（教職大学院）が置かれている。学部段階での教育を基礎にして、それぞれの課程では、学校現場で実践的指導力を発揮できる（身につけた）教員を養成することを目的としている。

修士課程

専攻	専修・コース	領域
障害児教育専攻	障害児教育専修	
教科教育実践専攻	文化・社会 自然・情報 芸術・表現 生活・体育	国語、社会、英語 数学、理科、技術 音楽、美術 家政、保健体育



授業風景

専門職学位課程

専攻	コース
教職リーダー専攻	児童生徒支援、学校運営



教育学研究科・町探検に同行

社会情報学研究科 (荒牧地区)

社会情報学の深化を目指し、行政、企業、NPOなどの組織における意思決定に具体的・実践的に関与できる高度専門職業人の育成と、人間と情報社会の諸問題や各組織のあり方を考究できる実践的研究者の養成を目的としている。

修士課程

専攻	コース
社会情報学専攻	社会情報システムデザインコース (社会モデリング系、社会実証系)
	メディア社会構想コース (メディア系、社会・組織系)



修士論文発表会

医学系研究科(昭和地区)

科学的知(Science)、倫理(Ethics)、技能(Skill)を探究し、それらの動的な融合から世界の医科学をリードする教育・研究・医療拠点を構築することを目標としている。先端的生命科学研究をさらに推進させ、疾病の病因究明と体系的治療戦略を実践する医学研究者を育成する。また高い倫理観と卓越した臨床研究能力を持つ医療人を育成するとともに研究成果の社会還元を促進していく。



実験風景

修士課程

専攻	
修士課程	生命医科学専攻

博士課程

専攻		領域	講座
博士課程	医科学専攻	基礎・基盤医学	機能形態学、生体構造学、分子細胞生物学、生化学、応用生理学、脳神経再生医学、神経薬理学、遺伝発達行動学、病態腫瘍薬理学、細菌学、生体防御学、公衆衛生学、法医学、医学哲学・倫理学
		臨床医学	【内科学講座】 循環器内科学、呼吸器・アレルギー内科学、消化器・肝臓内科学、内分泌内科学、腎臓リウマチ内科学、血液内科学、脳神経内科学 【総合外科学講座】 循環器外科学、呼吸器外科学、消化管外科学、乳腺・内分泌外科学、肝胆膵外科学、小児外科学 腫瘍放射線学、放射線診断核医学、神経精神医学、麻酔神経科学、救急医学、総合医療学、リハビリテーション医学、臨床検査医学、病態病理学、病理診断学、小児科学、産科婦人科学、泌尿器科学、脳神経外科学、眼科学、耳鼻咽喉科・頭頸部外科学、皮膚科学、形成外科学、整形外科、臨床薬理学、口腔顎顔面外科学、医療の質・安全学
			【協力・連携講座】 ●医学部附属病院 臨床試験学、情報医療学 ●生体調節研究所 細胞構造、個体統御システム、脳病態制御、分泌制御、生体膜機能、代謝エピジェネティクス、遺伝生化学、分子糖代謝制御、代謝シグナル解析、遺伝子情報、ゲノム科学リソース ●重粒子線医学研究センター 重粒子線医学物理・生物学、重粒子線臨床医学 ●ビッグデータ統合解析センター 病態情報解析学 ●量子科学技術研究開発機構高崎量子応用研究所 生体機能解析学

保健学研究科(昭和地区)

保健学に関する知識・技術・研究基礎能力を更に高め、個人及び集団の健康保持増進や生活の質(QOL)向上のための独創的あるいは学際的な研究を進め、幅広い学識と高度な専門性、倫理性を身につける。

博士課程

専攻		ユニット又は領域
博士前期課程(修士)	保健学専攻	基礎保健学ユニット、応用保健学ユニット、地域・国際保健学ユニット
博士後期課程(博士)		看護学領域、生体情報検査科学領域、リハビリテーション学領域

理工学府(桐生地区)

現在大学が社会から求められている、多様化・複層化が進化する産業活動における諸課題に対して俯瞰的なものの見方と、総合的実践力・独創力を発揮し、社会からのニーズに応えることのできる高度理工系専門人材を育成することを目的としている。

専攻		分野
博士前期課程 (修士)	理工学専攻	●物質・生命理工学教育プログラム 物質・生命理工学統合分野、物質科学分野、生物科学分野、計測科学分野 ●知能機械創製理工学教育プログラム 知能機械創製理工学統合分野、エネルギーシステム分野、マテリアルシステム分野、メカトロニクス分野、インテリジェントシステム分野 ●環境創生理工学教育プログラム 環境創生理工学統合分野、社会基盤工学分野、流域マネジメント工学分野、災害社会工学分野、エネルギー創生分野、環境システム制御分野、バイオプロセス開発分野、環境材料創製分野 ※日清紡アドバンストカーボン工学講座 ★日清紡カーボンアロイ触媒機能科学共同研究講座 ●電子情報・数理教育プログラム 電子情報理工学統合分野、電子デバイスシステム分野、計測・制御・エネルギー分野、情報通信システム分野
		●物質・生命理工学領域 ●知能機械創製理工学領域 ●環境創生理工学領域 ※日清紡アドバンストカーボン工学講座 ★日清紡カーボンアロイ触媒機能科学共同研究講座 ●電子情報・数理領域
博士後期課程 (博士)	理工学専攻	

※印は寄附講座
★印は共同研究講座



授業風景



授業風景



授業風景

特別支援教育特別専攻科(荒牧地区)

特別支援教育特別専攻科は大学の学部での学修を基礎にして、特別支援教育に関する高度な専門的教育を行い、社会からのニーズに応えられる有能な職業人の養成を目指している課程で修業年限は1年である。

専攻	コース
重複障害教育専攻	一種免許状取得、専修免許状取得

教育学部附属学校(若宮・上沖地区)

幼児及び児童・生徒に対し、幼児教育、義務教育として行われる普通教育及びそれに準ずる教育等を施すとともに、それぞれに関する実践的研究や先導的研究を学部と協力して推進し地域の教育の充実・発展に寄与することや、教育学部学生の実習を実施することを目的としている。幼稚園、小学校、中学校、特別支援学校がある。

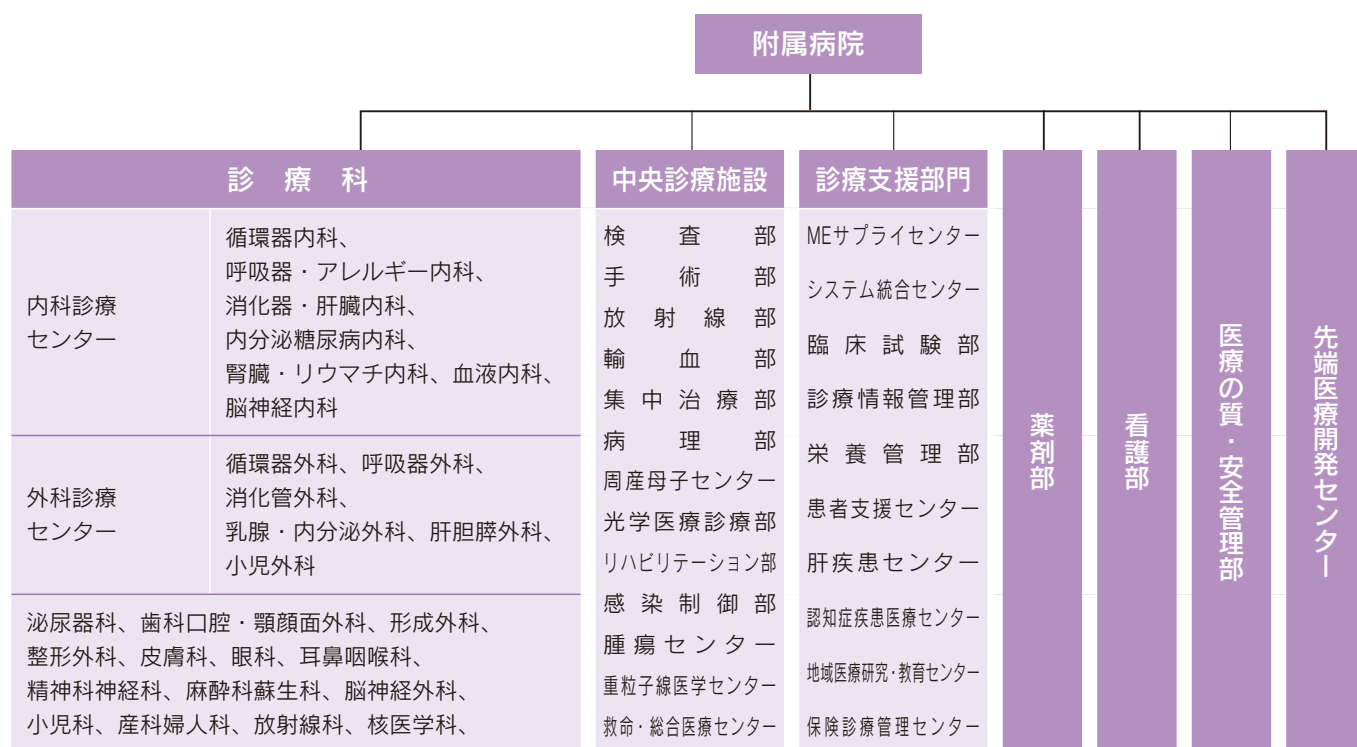


体育大会(附属中学校)

医学部附属病院(昭和地区)

診療を通じて医学の教育及び研究の向上を図るものである。

病院には、教育と診療と研究の3つの重要な責務がある。教育については、医学部等の要請による臨床実習及び卒業後の初期教育が主体であり、診療については、保険医療機関として地域医療に貢献するとともに、一般医療機関では行い難い高度医療を提供する医療機関として活動し、研究については、先進医療の開発を中心とした臨床研究を行うことが、それぞれ主体となっている。



生体調節研究所(昭和地区)

生体調節研究所では、インスリンの分泌や作用の機構、膵臓インスリン分泌細胞の分化・再生、糖尿病・肥満症など生活習慣病の成因・病態生理の解明など、糖尿病関連の研究が盛んである。また、内分泌・代謝疾患の成因・病態の基盤となる、細胞内膜輸送、細胞間・細胞内シグナル伝達、エネルギー代謝・摂食調節、ストレス・炎症応答、エピゲノム制御といった、基礎的な研究分野でも大きな成果を上げている。これらの研究によって、生体調節の異常に基づく疾患の発症予防・病態制御に寄与したいと考えている。



生体調節研究所

研究部門

研究部門	分野
生体情報部門	遺伝子情報、細胞構造、代謝エビジェネティクス
病態制御部門	遺伝生化学、個体統御システム 分子糖代謝制御、脳病態制御

附属研究施設

附属研究施設	分野
生体情報ゲノムリソースセンター	ゲノム科学リソース、疾患ゲノム研究
代謝シグナル研究展開センター	代謝シグナル解析、 トランスレショナルリサーチ
生体情報シグナル研究センター	分泌制御、生体膜機能



研究活動の様子(遺伝生化学分野)

総合情報メディアセンター

総合情報メディアセンターは、本学の教育研究支援を目的とした学術情報の収集と情報発信並びにIT基盤の整備・運用を行っている。図書館部門は、資料の整備・提供に加えて、学生のための「学びの場」としてラーニングコモンズを設置するとともに、地域の「学びの場」として学外者へのサービスにも力を入れている。情報基盤部門は、CIO(情報化統括責任者)のもと情報化を進めるとともに、情報セキュリティインシデントへの対応を迅速かつ一元的に行うことを目的として全学の危機管理室に設置された「群馬大学CSIRT」と緊密に連携し、情報セキュリティの確保において重要な役割を果たしている。

図書館部門

図書館部門は、中央図書館(荒牧地区)、医学図書館(昭和地区)及び理工学図書館(桐生地区)の3館が連携・協力しながら、図書の提供・保存のほか、電子的資料に対応するため、「群馬県地域共同リポジトリ(AKAGI)」の構築、電子ジャーナルや各種データベースの整備を行っている。各館に整備したラーニングコモンズにおいて講演会や展示会を定期的に開催するとともに、地域交流のため中央図書館内のギャラリー利用を学外者にも開放している。

蔵書数(平成30年5月1日現在) (単位:冊)

区分	中央図書館	医学図書館	理工学図書館	計
和書	274,168	70,483	88,700	433,351
洋書	55,961	59,545	63,614	179,120
計	330,129	130,028	152,314	612,471



中央図書館(荒牧地区)

情報基盤部門・事務情報部門

情報基盤部門は、全学の組織である群馬大学CSIRTと連携し、セキュリティが確保され安心して使いやすIT環境の実現に努めている。

荒牧地区、昭和地区、桐生地区に職員を配置し、電子メールなどのITサービスの提供、学内LANの管理運用、授業や演習等に利用される教育用端末の整備とともに、利用者へのサポートを行っている。

事務情報部門は、GUNetを利用して事務情報ネットワークを整備し、情報基盤部門と連携し、事務の効率化・情報化を推進している。

■全学ソフトウェアライセンス(ソフトウェアの無償配布)

学生、教職員が全学的に使用するソフトウェアの標準化と、その整備に係る経費の節減並びにソフトウェアの不正コピーの防止を組織的に取り組むことでのコンプライアンス対策等を目的として、マイクロソフト社との間で「マイクロソフト包括ライセンス契約」を締結している。当該契約により本学の教職員及び学生は、個人のパソコンにも無償でWindowsやOfficeの最新バージョンを利用することができる。

■群馬大学学術情報ネットワーク(GUNet)

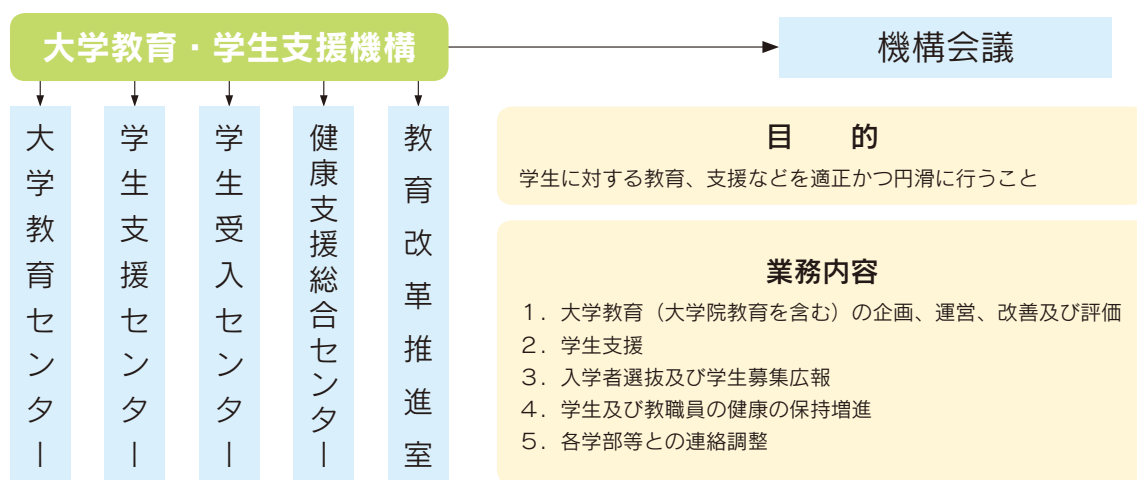
教育研究に不可欠な情報ネットワーク環境として、全学的な認証ネットワークを提供している。有線LANは全学で利用可能であり、無線LANは昭和地区のほぼ全域と、荒牧・桐生・太田地区の右のステッカーを提示している場所で利用可能である。



※総合情報メディアセンターでは、上記に加え様々なサービスを提供している。サービスの詳細については、ホームページを参照。

大学教育・学生支援機構

大学教育・学生支援機構は、大学教育センター、学生支援センター、学生受入センター、健康支援総合センター及び教育改革推進室からなる。



大学教育センター

目的

全学に共通する大学教育の基盤を整備するとともに、教養教育を円滑に運営すること

業務内容

1. 大学教育の教育内容及び教育方法の改善
2. 大学教育の運営及び評価

学生支援センター

目的

学生の生活及び就職活動に対する支援並びに修学に係る相談等を適切かつ円滑に行うこと

業務内容

1. 学生生活の支援
2. 学生相談の企画、立案及び実施
3. 学生の就職指導の企画、立案及び実施
4. 障害学生の修学支援

学生受入センター

目的

学生募集に係る広報の推進並びに入学者選抜の改善に係る調査及び研究並びに入学者選抜に係る情報の適正な管理を行うこと

業務内容

1. 学生募集に係る広報活動
2. 入学者選抜方法の改善
3. 入学者選抜に係る調査及び研究
4. 入学者選抜に係る情報の保護、管理及び開示
5. 入学者選抜に係るリスクマネジメント
6. 大学入試センター試験

健康支援総合センター

目的

学生及び教職員の心身の健康の保持増進を図ること

業務内容

1. 健康診断の企画、立案及び実施
2. 健康診断に係る指導助言
3. 身体的及び精神的（カウンセリングを含む）な健康相談
4. 応急措置
5. 健康に係る調査及び研究
6. 感染症の予防及び環境衛生に係る指導助言

教育改革推進室

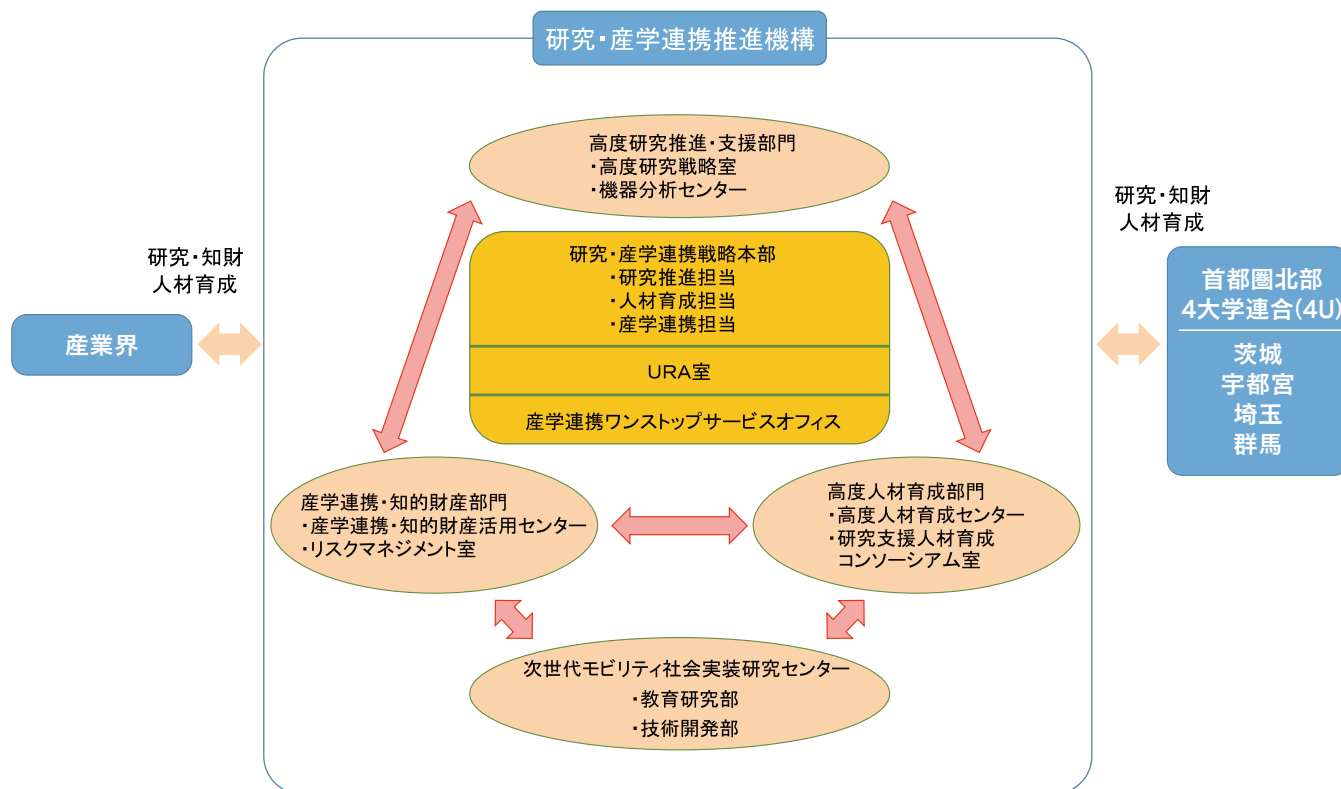
目的 大学教育全体の改革を推進していくこと

業務内容

1. 教育実施体制及び教育方法等に関する企画立案
2. 地域と連携した教育に関する企画立案
3. 社会ニーズを踏まえた教育プログラムの企画立案
4. アクティブラーニングに関する企画立案

研究・産学連携推進機構

研究・産学連携推進機構は、研究・産学連携戦略本部、高度研究推進・支援部門、高度人材育成部門、産学連携・知的財産部門、次世代モビリティ社会実装研究センターから組織されており、大学の基本理念に基づき、優れた研究成果を生み出すための体制を強化し、知的財産の管理・運用等を円滑に行い、もって本学における学術研究の一層の高度化とその成果を広く社会に還元することを目的としている。



研究・産学連携戦略本部

◇URA室

(1) 研究活動等の調査・分析 (2) 科学技術・学術政策等の動向把握等 (3) 競争的資金等に係る情報収集・分析及び申請支援 (4) プロジェクト研究推進の支援 (5) 産学官連携推進の支援

◇産学連携ワンストップサービスオフィス

(1) 外部機関等からの相談窓口及び運営 (2) 外部機関等からの産学連携に係る依頼事項等の調整 (3) 外部機関等との技術移転活動の調整及び成果の検証 (4) 機構の産学連携組織間における産学連携活動の進捗等の情報共有

高度研究推進・支援部門

◇高度研究戦略室

(1) 研究戦略の策定 (2) 先端研究の推進 (3) プロジェクト型研究の推進 (4) 競争的研究資金獲得のための企画立案 (5) プロジェクトに係る研究設備マスタープランの策定

◇機器分析センター

(1) 機器の管理運用 (2) 利用者に対する講習及び技術指導 (3) 分析、測定及び解析 (4) 分析技術の研究開発、情報収集及び情報提供 (5) 外部依頼分析、技術相談 (6) 共同利用に係る研究設備マスタープランの策定

高度人材育成部門

◇高度人材育成センター

(1) ポストドクター(PD)及び博士課程学生の実践的能力の開発 (2) PDのインターンシップの実施 (3) PD及び博士課程学生と企業等との交流及び連携 (4) 教職員のキャリアパスに係る意識啓発 (5) PD及び博士課程学生のキャリア開発プログラムの構築 (6) 創業者及び創業支援人材の育成

◇研究支援人材育成コンソーシアム室

(1) コンソーシアムの事務局 (2) コンソーシアム事業の実施

産学連携・知的財産部門

◇産学連携・知的財産活用センター

(1) 民間機関等との共同研究及び受託研究 (2) 知的財産の創出、取得、管理及び技術移転 (3) 知的財産情報の発信 (4) 大学発ベンチャー企業の創出及び支援 (5) 首都圏北部地域における知的財産の技術移転支援 (6) 地域社会における学術研究の交流

◇リスクマネジメント室

(1) 利益相反に係る適切な管理 (2) 外国為替及び外国貿易法に基づく輸出管理に係る適切な管理 (3) 学内外の関係する機関等との連絡調整 (4) 教職員等に対する啓発活動

次世代モビリティ社会実装研究センター

次世代自動車産業振興に資する産学官金連携イノベーションの拠点形成を目指し、次世代モビリティシステムの社会実装研究と開発及び高度人材育成を目的に (1) 次世代モビリティの研究開発に関すること、(2) 次世代モビリティに係る学生及び社会人に対する人材育成に関すること。

重粒子線医学推進機構

重粒子線医学にかかる研究、教育、診療活動を適正かつ円滑に推進することを目的としている。

重粒子線医学研究センター

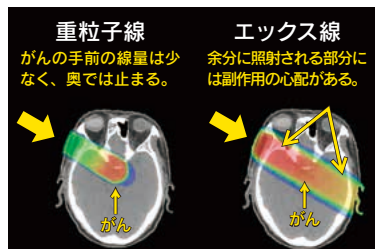
重粒子線加速器を導入し、基礎／臨床放射線医学研究ならびに重粒子線治療技術の高度化研究開発を推進するとともに、この分野を担う臨床腫瘍医、医学物理士、放射線生物学者等の養成を行うことを目的としている。

重粒子線医学センター

重粒子線がん治療の臨床試験を推進するとともに、重粒子線治療を含む集学的がん治療の実践により、地域医療から国際医療まで幅広く貢献することを目的としている。

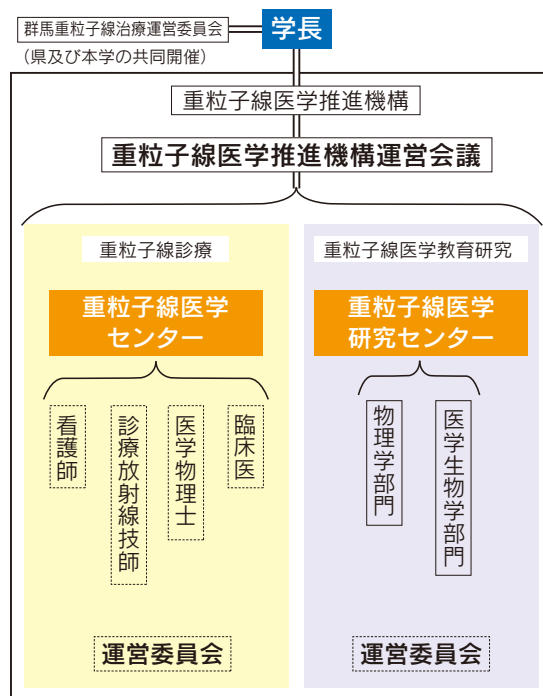


重粒子線医学センター（重粒子線照射施設）



線量分布の比較（重粒子線とX線）

重粒子線医学推進機構組織図



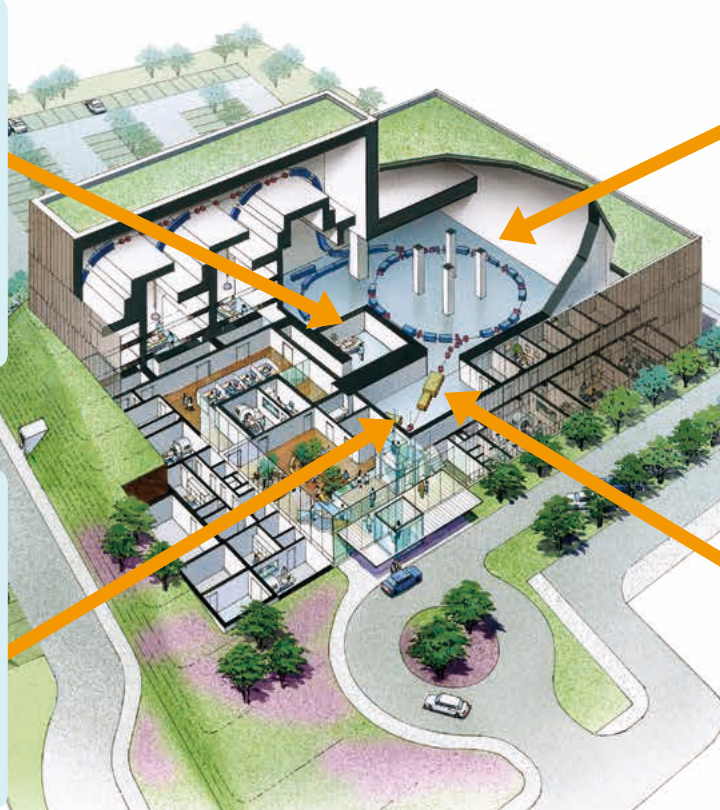
治療室

加速された炭素イオンはここで患者さんに照射される。重粒子線照射中に痛みは感じない。



イオン源装置

ここで化学物質の中の炭素原子から炭素イオンが作られる。



シンクロトロン加速器

線形加速器から送られた炭素イオンはシンクロトロンの中を周回している間に光速の70%まで加速される。



線形加速器

炭素イオンを主加速器であるシンクロトロンに送り込む前に予備的な加速を行う。

本重粒子線照射施設は、縦横約45m×65m、高さ約20mの建築物で、その中に、重粒子（炭素イオン）を最高で光の70%程度の速度まで加速する直径約20mのシンクロトロン加速器と3治療室ならびに付帯設備を持つ。この治療装置は、重粒子線治療の普及を目指して小型化された最新の装置であり、国際的な注目を集めている。

本学では、群馬県との共同事業として、平成18年度にこの施設の建設に着手し、平成22年3月に治療を開始し、同年6月から限局性固形がんに対する先進医療を開始した。設置後の運営においては、県内医療機関と連携して、施設を効果的に活用し、群馬医療圏に高度な統合的がん医療体制を構築し、重粒子線照射施設を全国の諸地域に配置する場合の施設活用のモデルとなることを目指している。

平成28年4月から、重粒子線治療は切除非適応の骨軟部腫瘍（骨や筋肉、血管、皮下組織などの軟部に発生する腫瘍）、前立腺がん、頭頸部がんが順次保険適用となっている。

学内共同教育研究施設等

国際センター

国際センターは、群馬大学の国際化事業を一元的に行う全学的な組織として平成29年5月に設置された。教育・研究両面での国際交流と留学生交流等を推進するため、国際交流協定の締結、国際交流に関するプロジェクトの推進をはじめ、外国人留学生のための日本語等の教育プログラムの実施、修学・生活に関する指導や相談を行っている。また、学生の海外派遣等に関する助言及び支援を行うことを目的としている。



日本伝統文化実践「邦楽器演習」

数理データ科学教育研究センター

数理データ科学教育研究センターは、超スマート社会（Society 5.0）の実現に向けて、本学の特色である実データを用いたデータ科学や情報数理に係る教育研究を実施することを目的に、平成29年12月に設置された。

センター内の2つのユニット「情報数理ユニット」「データ科学ユニット」が連携して教育研究に取り組むことで、社会のあらゆる分野においても実践的に活躍するための数理的思考力を持った人材の育成、ICTを活用した教育手法の開発研究及びビッグデータを含む実データを用いた実践的な研究等を進める。



遠隔授業のためのセットアップ

食健康科学教育研究センター

食健康科学教育研究センターは、県内農作物を用いたエビデンスベースの高機能食品の開発、ブランド化、食品残渣の高度利用、輸出促進等を通じて、これまで本学が力を入れてきた地域貢献をより一層推進するため、平成29年12月に設置された。

本学は、医学系研究科、保健学研究科における食の安全安心に係る分析機能、生体調節研究所における生活習慣病の予防開発機能、理工学府における食品開発・先端加工・製造技術の教育研究機能、さらに教育学部や社会情報学部における食育、健康志向、ブランディングの教育研究機能等を有している。本センターが中心となり、これらの機能を活用して文理の広い分野における食と健康に係る教育研究及び地域貢献を行う。



農業技術センター視察の様子

未来先端研究機構

未来先端研究機構は、群馬大学が強みを持つ統合腫瘍学（重粒子線によるがんの治療開発等）や内分泌代謝・シグナル学（生活習慣病の病態解明等）などの研究分野において世界水準の研究力を強化することを目的とし、先端的な研究組織として平成26年4月に設置された。

本機構では、グローバル化に対応するため、年俸制を導入するとともに、世界トップクラスの海外研究機関から研究者を招へいして海外ラボラトリーを設置し、国際共同研究を実施している。



海外ラボラトリー研究活動の様子

共同研究拠点等

内分泌・代謝学共同研究拠点（生体調節研究所）

内分泌・代謝学および関連領域において、臨床医学研究者を含む研究者コミュニティから要請された共同研究を、研究材料や解析技術の供与によって推進する。そして、その成果発表、研究交流を通じて、当該領域における研究者の育成に寄与する。

アドバンスカーボン構造・機能相関解析研究拠点（理工学府）（機器分析センター）

「低炭素社会構築に向けた研究基盤ネットワーク整備」事業

群馬大学のカーボン材料研究グループが有する、①カーボン材料に関する研究開発とその技術的蓄積、②機能性ナノ材料であるナノシエルの開発力、③カーボン材料の構造及び機能を解析する研究力、以上、3つの特徴をフルに活用することにより、サテライト拠点としてハブ拠点と連携して低炭素社会の構築を目指す。

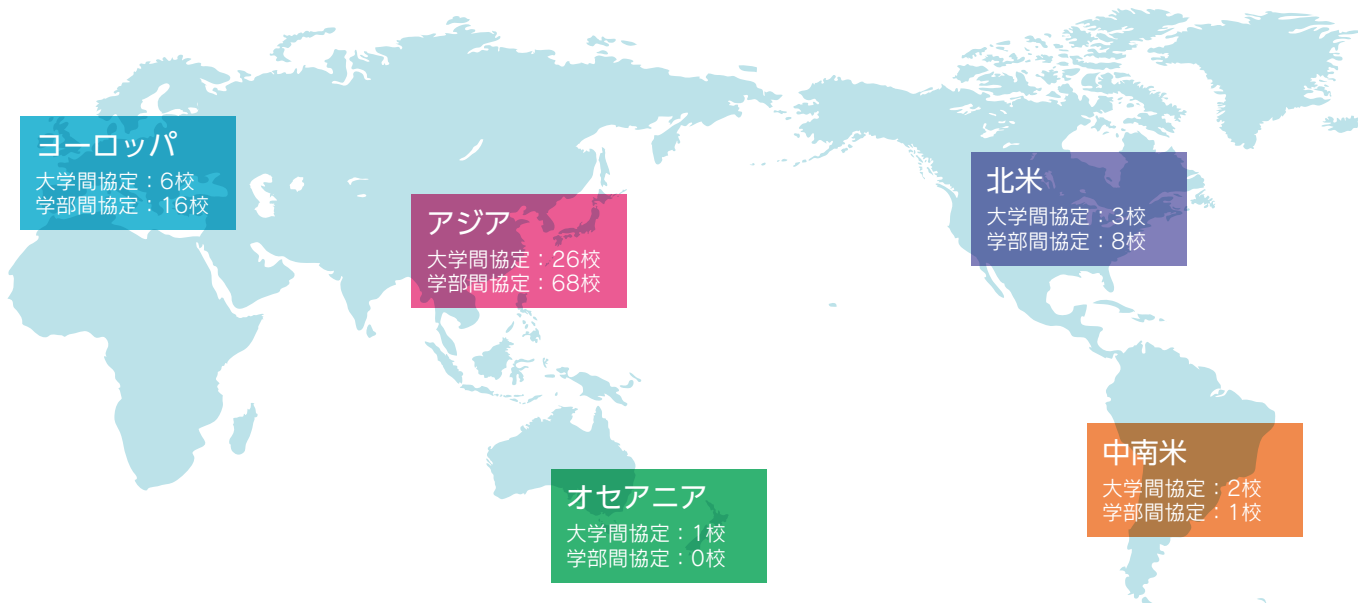
国際交流

国際的な学術・学生交流促進のため、群馬大学は世界各国の大学等と包括的な国際交流協定を多数締結し、研究者交流、学生の交換留学や短期研修プログラム等様々な交流を展開している。

2017年5月に国際センター（GUIC, Gunma University International Center）を設置し、国際戦略室のもと、群馬大学全体の国際化の方針や事業計画等を企画・立案・決定し、学生の海外留学・研修、留学生の受入れ、教職員の海外派遣、外国人研究者の受入れ等の国際交流事業を推進している。

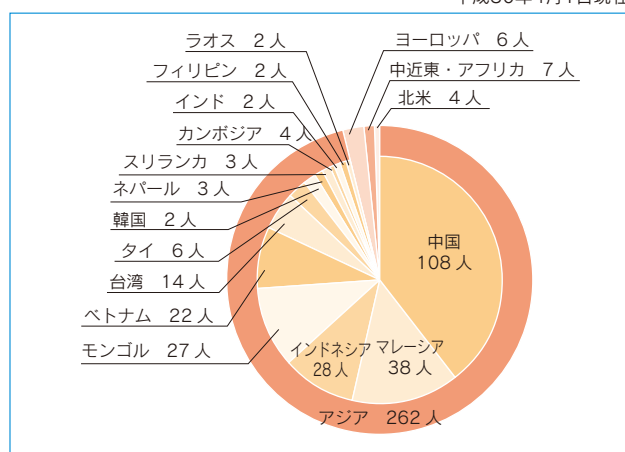
●大学間・学部間協定

平成30年4月1日現在



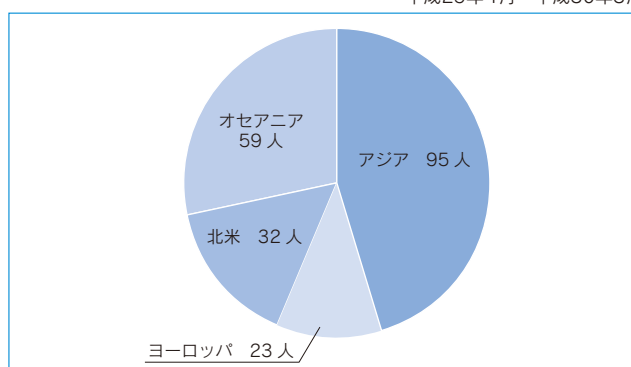
●地域別外国人留学生数

平成30年4月1日現在



●地域別海外への学生派遣人数

平成29年4月～平成30年3月



群馬大学サマープログラム
日本文化体験



学生海外派遣2018春
ウーロンゴン英語研修(空港にて)



地球規模課題対応国際科学技術協力プログラム
保健学研究所 嶋田淳子教授(エルサルバドル)

地域・社会との連携

教育や研究とともに社会貢献活動、特に地域貢献活動に力を入れています。コミュニティーの一員として、地域と共に歩む大学を目指して、各種公開講座や“群馬ちびっこ大学”などのイベント、また各教員や学部が実施するシンポジウムなどを通じて、一般県民の皆様、小中高生や大学生、教員、教育委員会や市町村などの自治体の皆様などを対象に、幅広い地域貢献活動を展開しています。これにより地域の皆様のニーズに応じて、本学の教育・研究活動の成果を社会に還元し、地域を発展させるため努力しています。

●公開講座・開放講座

本学がもつ教育・研究の成果を知識と技として広く社会に開放し、地域社会における教育文化の向上に資することを目的に、昭和63年度から実施しています。また、平成16年度に国立大学が法人化されてからも、引き続き実施しています。本年度も教育学部、社会情報学部、医学部及び理工学部の教員等が講師となり、多くの講座を開講しています。



平成29年度公開講座Aコース
「ブラックホールと重力波」



平成29年度公開講座Bコース
「からだであそぼう!!からだであうたおう!!
みんなでまなぼう!!」



平成29年度公開講座Bコース
「英語教師の英語力アップ講座2:
英語で授業を行うための「流暢さUP」ワークショップ」

●こども体験教室「群馬ちびっこ大学」

専門的な学問をわかりやすく、とりわけ小学生にも理解できるように、また興味がわくように行っているのが「群馬ちびっこ大学」です。子どもたちは、実体験を通じた学習機会が少なくなってきました。そこで体験的な学習を通じて、五感で学問の面白さ、奥深さを実感することで、将来の日本や世界を担う人材の若い芽を育むことを目的として実施しています。



入場



ぐんまちゃんは料理の達人



看護師さんの秘密器具を使ってみよう!



逆さ世界を体験しよう



中国語でコマを作ろう!



卒業証書

資料編

Contents

資料編	19
目次	20
基本理念、目標	21
群馬大学の教育ポリシー	22－23
歴代学長、沿革	24－25
管理運営組織、事務組織	26
教育・研究組織	27
役員及び主な役職者等	28－29
学生の数	30－31
入学志願状況等、学部入学者の出身地区別内訳	32
卒業・修了者数・学位授与者数	33
卒業後の状況	34
国際交流	35－37
附属施設	38
主な教育研究補助金採択状況	39
地域貢献事業一覧、公開講座、開放講座	40
収入・支出予算額、研究費等受入状況	41
土地・建物面積、学部等所在地分布図	42
学部等所在地	43
建物配置図（荒牧地区、昭和地区）	44
建物配置図（桐生地区、太田地区）	45
交通アクセス（荒牧、昭和、若宮、上沖地区）	46
交通アクセス（桐生、太田地区）	47
学生歌、大学徽章・ロゴマーク	48
認証評価認定マーク	49

1. 新しい困難な諸課題に意欲的、創造的に取り組むことができ、幅広い国際的視野を備え、かつ人間の尊厳の理念に立脚して社会で活躍できる人材を育成する。
2. 教育及び研究活動を世界的水準に高めるため、国内外の教育研究機関と連携し、世界の英知と科学・技術の粋を集め、常に切磋琢磨し、最先端の創造的な学術研究を推進する。
3. 教育及び研究の一層の活性化と個性化を実現するため、大学構成員の自主性、自律性を尊重し、学問の自由とその制度的保障である大学の自治を確立するとともに、それに対する大学としての厳しい自己責任を認識し、開かれた大学として不断の意識改革に務める。

目 標

教育

- (1) 学生の自主的で創造的な勉学を促進する学修環境を整えとともに、学生が本来持っている潜在的能力とエネルギーを引き出すため最大限の支援を行う。
- (2) 教養教育においては、その重要性を認識し、全学的な協力体制の下、専門教育との連携を図りながら、幅広く深い教養、総合的な判断力、そして自然との共生を基盤とした豊かな人間性を涵養する。
- (3) 学部専門教育においては、教養教育との融合を図りつつ、各専門分野の最新の知見及び技術を修得しうる基礎的能力を育成し、豊かな知性と感性及び広い視野を持ち、学士力に裏打ちされた、社会から信頼される人材を養成する。
- (4) 大学院教育においては、高い倫理観と豊かな学識に立脚し、学部専門教育との関連を視野において、実践力を有する高度専門職業人及び創造的能力を備えた研究者を養成する。

研究

- (1) 専門分野において独創的な研究を展開するとともに、特に重点研究領域において国内外の大学・研究機関と連携して先端的研究を推進し、国際的な研究・人材育成の拠点形成する。
- (2) 基礎的研究と応用的、実践的研究との融合を図り産業界や自治体等との共同研究・共同事業を推進し、その成果を広く社会に還元する。

社会貢献等

- (1) 地域の知の拠点として学内外の関係機関と連携した活動を通じて、地域の文化及び伝統を育み、豊かな地域社会を創造する活動を行うとともに、知の地域社会への還元を推進し、産業の発展に貢献する。
- (2) 地域医療を担う中核として医療福祉の向上にあたるとともに、地域住民の多様な学習意欲や技術開発ニーズに応え、地域社会の活性化に貢献する。
- (3) 国際的視野の下で教育研究を充実する観点から、留学生の受け入れ及び本学学生の海外派遣を推進するとともに、海外の大学等との学術交流や教職員の国際交流を進める。

大学運営

- (1) 学長のリーダーシップの下で経営戦略を明確にし、大学構成員の能力を引き出し、自主性、自律性を持って効率的な大学運営に当たる。
- (2) 大学内での情報共有化と社会に対する大学情報の積極的な発信に努め、学内外への説明責任を果たす。
- (3) 不断の点検・評価と改革を推進し、大学の活力を維持発展させるとともに、大学の諸活動の質的向上を図る。

学部

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）～このような人材を育てます～

<卒業認定・学位授与の条件>

1. 以下の学修達成目標及び所属する学部・学科・課程が定める学位授与の要件を満足していること。
2. 所定の年限在学し、かつ所属する学部・学科・課程が定める単位を修得していること。

<学修成果の目標>

専門的学識、技能

1. 所属する学部・学科・課程の専門分野において求められる専門的学識・技能を修得し、現実の諸課題に対してその活用ができる。

幅広い教養、学際性

2. 人間社会、歴史・文化、自然等についての幅広い教養と学際的理解に基づいて、様々な問題に対して多面的・総合的な判断ができる。

論理的思考力、コミュニケーション力

3. 論理的思考力とコミュニケーション能力を持ち、社会で生起する問題に対し主体的に取り組む意欲を持っている。

社会人としての自覚、国際性

4. 自然との共生を基盤とした豊かな人間性と広い視野及び社会的倫理観を持ち、社会から信頼され国内外で活躍することができる。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）～このような教育を行います～

<教育課程編成と教育方法>

全学的な協力体制の下、教養教育と専門教育の融合を図り、幅広く深い教養、豊かな知性と感性、総合的な判断力、専門分野の基礎的能力を育成するため、学生の潜在能力を最大限引き出せる教育課程を編成し、実施します。本学の基本理念及び教育の目標を達成するために、本学の教育課程（カリキュラム）は以下の方針で編成されています。

1. カリキュラム・ポリシーを具現化するカリキュラム・マップに従った系統的な教育と、授業科目の目標・内容・教育方法・達成度（成績）評価方法等について詳述されたシラバスに基づいた教育を実施し、アクティブ・ラーニング等の学生の自主的な学修意欲を促す教育、授業時間外自己学修や学修の振り返りを促す教育等を幅広く行う。
2. 学士課程教育においては、全学共通の教養科目、学部別科目（専門基礎科目、一部の学部で開設）、及び専門科目、加えて学部独自の教養教育科目を、互いの融合を図りながら編成する。
3. 全学共通の教養科目は、学士力の育成の基礎となる教養基盤科目と、幅広く深い教養・総合的な判断力・豊かな人間性の涵養につながる教養育成科目の二つの科目群から構成される。個別の領域の知識を学ぶのではなく、それらを統合していく考え方の修得及び各学問分野に共通の思考・判断・表現法の修得につながる教育を行うことにより、学生が自らの教養と主体性を構築していくことを促し、また外国語も含めた汎用的技能の基盤を培い、アイデンティティの確立した知識人としての考え方ができる人材を育成する教育を行う。
4. 専門教育を学ぶ上で必須となる基礎的知識や技能の修得を目的に、高校教育と大学における専門教育との円滑な接合を助け、その分野の基本的リテラシーについて学ぶ教育を行う。また、専門分野に関連する分野についての基礎的理解と新しいアイデアを引き出すことに役立つ知識・技能の修得を図り、専門分野の知識・理解・技能の質の更なる向上を目指す教育を展開する。
5. 専門科目においては、次の能力の養成に向けた教育を行う。
 - (1) 専門分野の内容、社会的意義と限界を深く理解し、他者に説明・表現できる能力
 - (2) 専門分野に関係する諸分野についての基礎的理解があり、客観的な評価ができる能力
 - (3) 自らの専門分野の視点から現代世界が直面する諸変化の特性・特質を理解し、生起する諸課題について探究し、課題解決に実践的に取り組んでいくことができる能力

<学修成果の評価>

シラバスに記載の達成度（成績）評価方法に基づいて行います。

入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）～このような人を求めています～

<入学者に求める能力・資質>

群馬大学の理念、教育の目標に賛同し、本学の教職員と共に学術研究の成果を地域に還元し、豊かな地域社会・国際社会の創造に貢献していく意欲にあふれ、以下の能力・意欲を持つ人を求めています。

1. 高等学校の教育課程についての総合的な理解と大学教育を受けるにふさわしい基礎学力がある。
2. 専門分野を学ぶ上で必要な基礎知識と強い探究心、コミュニケーション能力を持っている。
3. 主体的に学ぶ姿勢と、論理的で柔軟な思考能力を持っている。
4. 知的好奇心が旺盛で、新しい課題に積極的に取り組む意欲がある。
5. 高い志と豊かな発想力を持ち、未来を切り開く夢と情熱を持っている。
6. 地域社会や国際社会に貢献する意欲とリーダーシップを持っている。

<入学者選抜の方針・方法>

群馬大学は、本学で学びたい学生に対し、その多面的な能力を評価し選抜するために、多様な受験機会・入学試験を提供します。また、本学の国際化推進基本計画に基づいて、海外からの留学生を積極的に受け入れる方針の下、受験機会を提供します。

本学の教育の目標、求める能力・資質に合致する学生を選抜するために、一般入試（前期・後期）の他に、特別入試としてAO入試、推薦入試、帰国生入試、社会人入試、私費外国人留学生入試、3年次編入学試験等の入学試験を実施します。本学の入学試験では、それぞれの学部・学科・課程の専門・特性に合わせて、大学入試センター試験、個別学力検査、実技等試験、調査書、活動歴、面接、小論文等を組み合わせて、総合的に合否を判定します。

大学院

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）～このような人材を育てます～

幅広く豊かな学識に立脚し、専門分野において創造性豊かに自立して研究活動を実践でき、高度な専門性・国際性を必要とする職業を担うための能力を身に付け、研究者・技術者・高度専門職業人としての倫理観を身に付けている人物で、各研究科・学府が課程又は専攻ごとに定めた修了要件を満たした者に、学位を授与します。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）～このような教育を行います～

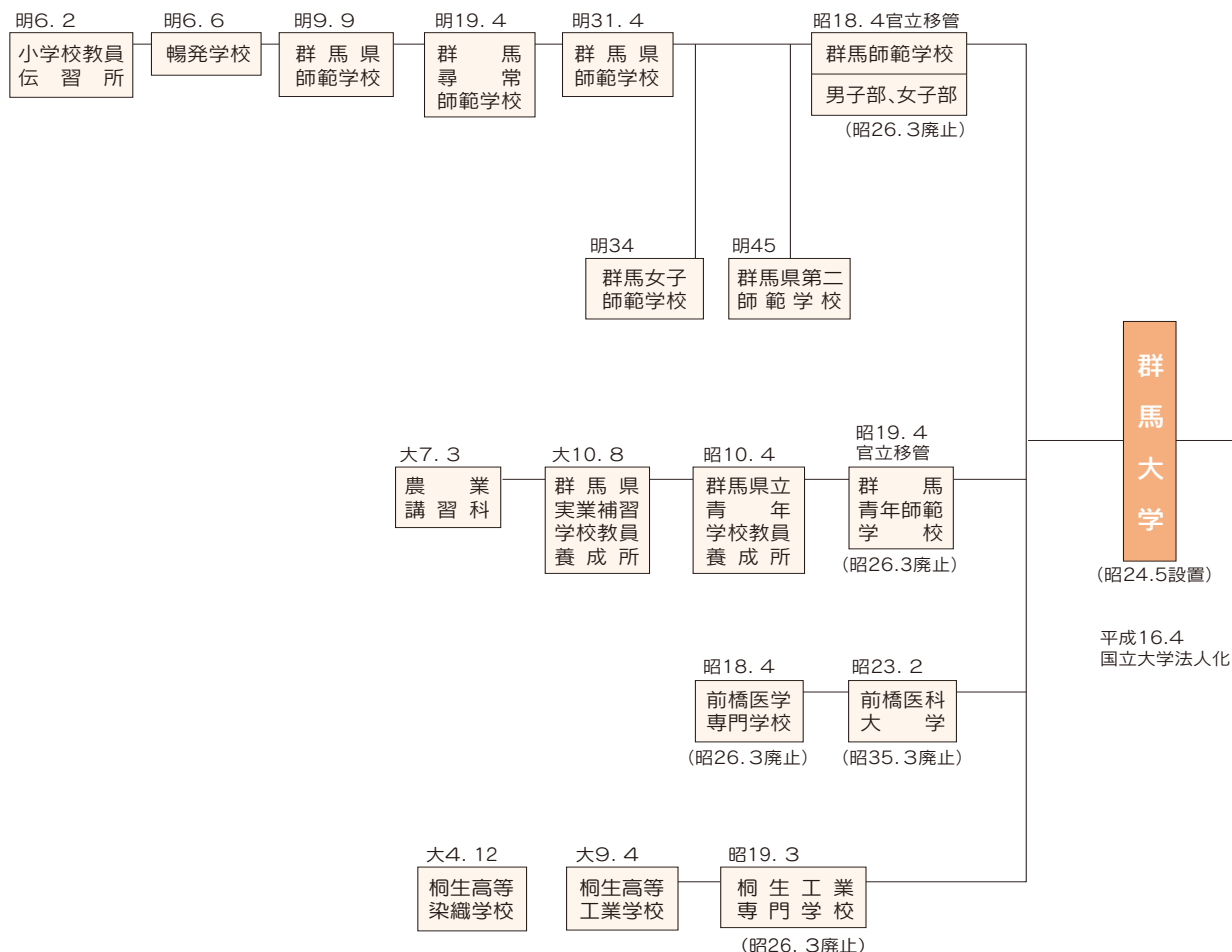
国際的に活躍できる、創造的能力を備えた研究者及び実践力を有する高度専門職業人を養成するため、専門分野における基礎的素養を涵養し高度な専門的知識及び能力を修得させるよう、各研究科・学府の課程又は専攻の教育目標の達成に向けた体系的な教育課程を編成し、実施します。

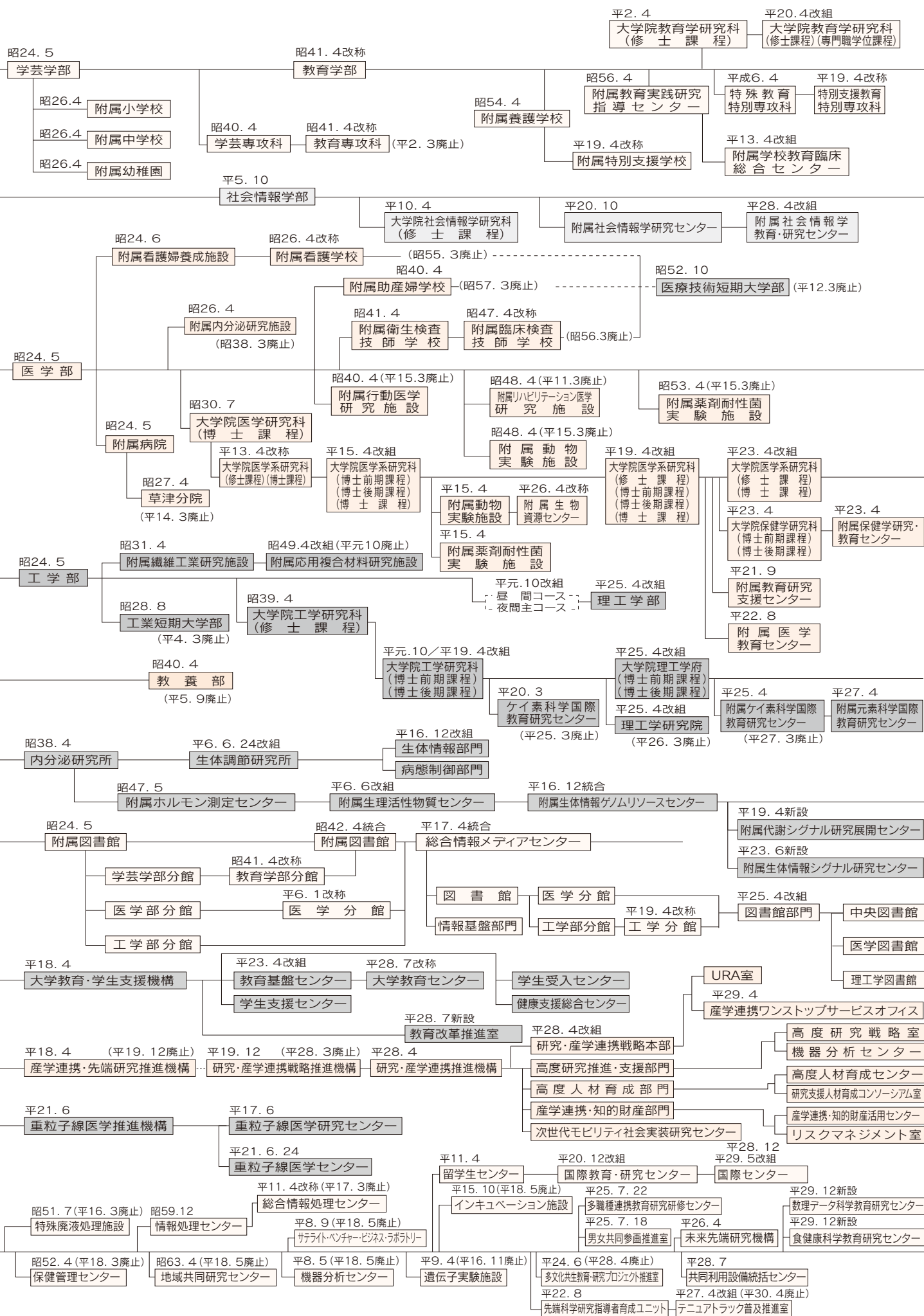
入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）～このような人を求めています～

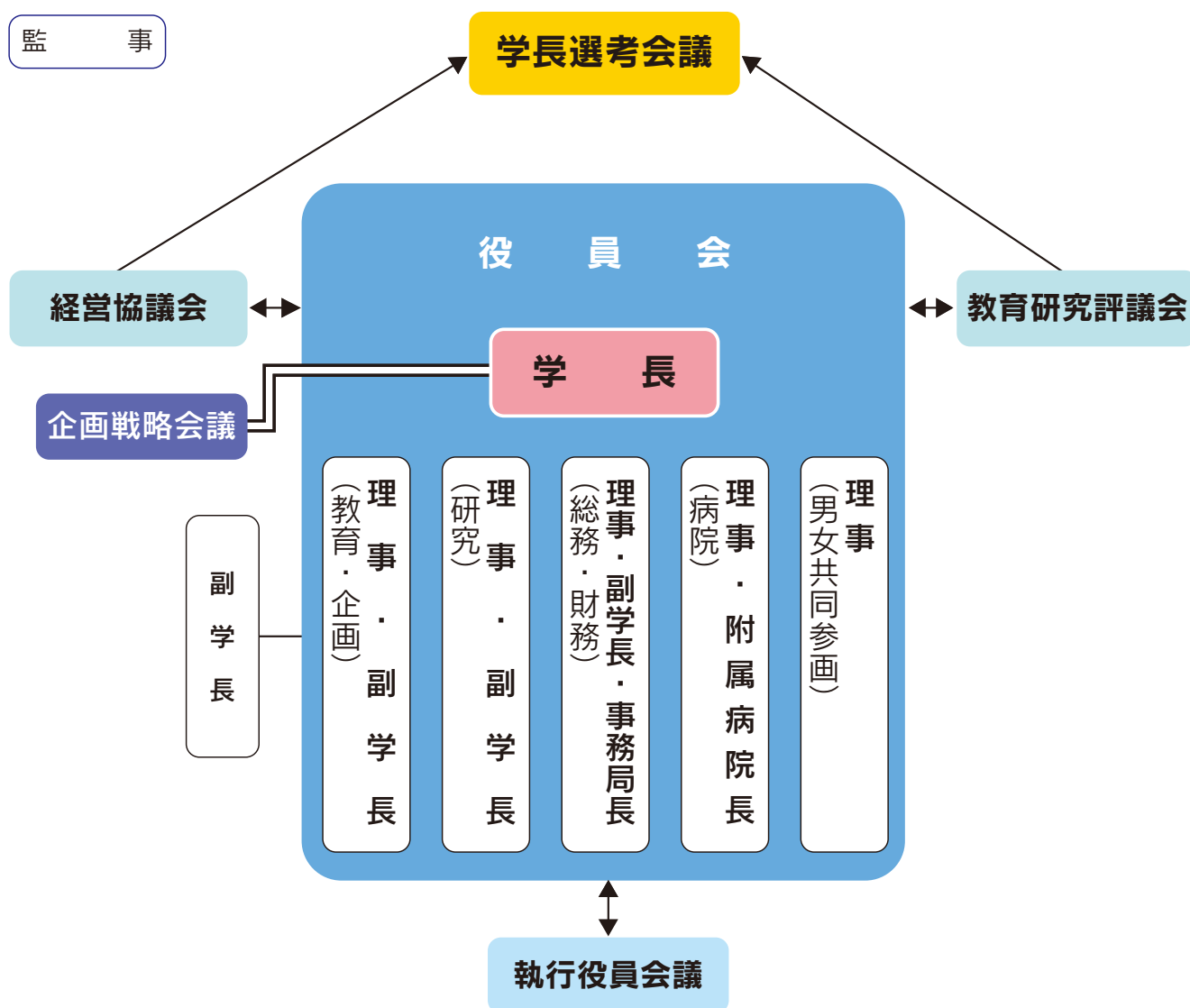
各研究科・学府が課程又は専攻ごとに求める学力・能力を持ち、研究や実践によって、人類社会の発展に貢献する意欲のある人を受け入れます。

代 数	氏 名	在 任 期 間
初 代	西 成 甫	昭和 24. 5.31 ~ 昭和 36. 6.20
(事務取扱)	相 葉 伸	〃 36. 6.21 ~ 〃 36. 7.13
第 2 代	長谷川 秀 治	〃 36. 7.14 ~ 〃 42. 7.13
(事務取扱)	柴 田 勝 博	〃 42. 7.14 ~ 〃 42. 8.31
第 3 代	秋 月 康 夫	〃 42. 9. 1 ~ 〃 46. 8.31
(事務取扱)	町 田 周 郎	〃 46. 9. 1 ~ 〃 46.12.15
第 4 代	石 原 恵 三	〃 46.12.16 ~ 〃 50.12.15
第 5 代	畑 敏 雄	〃 50.12.16 ~ 〃 56.12.15
第 6 代	小 野 周	〃 56.12.16 ~ 〃 60.12.15
第 7 代	前 川 正	〃 60.12.16 ~ 平成 3.12.15
第 8 代	石 川 英 一	平成 3.12.16 ~ 〃 9.12.15
第 9 代	赤 岩 英 夫	〃 9.12.16 ~ 〃 15.12.15
第 10 代	鈴 木 守	〃 15.12.16 ~ 〃 16. 3.31
(国立大学法人) (群馬大学長)	鈴 木 守	〃 16. 4. 1 ~ 〃 21. 3.31
第 11 代	高 田 邦 昭	〃 21. 4. 1 ~ 〃 27. 3.31
第 12 代	平 塚 浩 士	〃 27. 4. 1 ~ 現在

沿 革





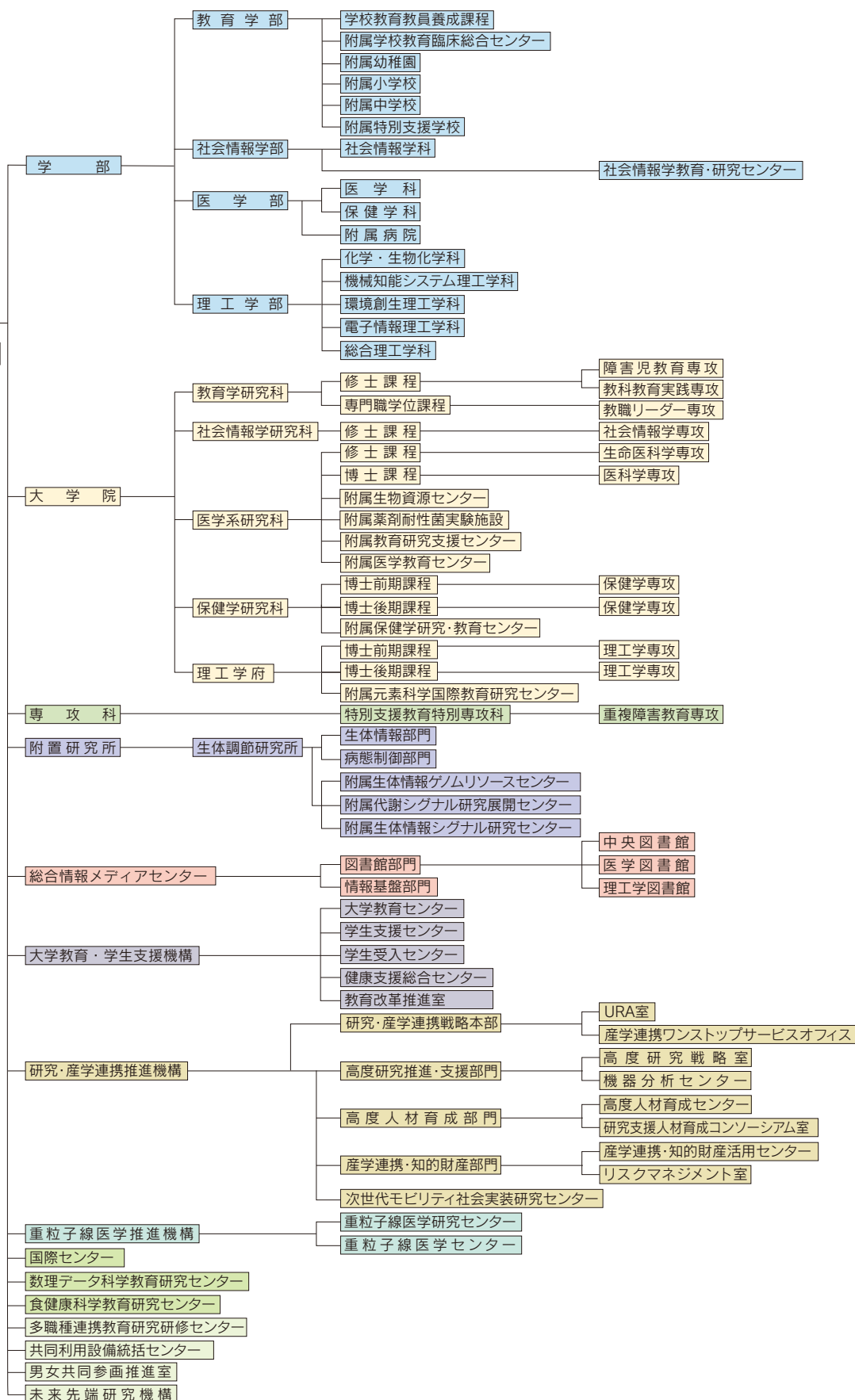


事務局														監査室	法務・コンプライアンス室	教育学部				社会情報学部・事務部	昭和地区事務局					医療安全推進室	理工学部・事務部
総務部			財務部		学務部		研究推進部			施設運営部		国際課	調査役			事務部	附属幼稚園事務室	附属小学校事務室	附属中学校事務室		附属特別支援学校事務室	総務課	学務課	経営企画課	管理運営課		
総務課	人事課	企画評価課	財務課	経理課	教務課	学生支援課	学生受入課	研究推進課	産学連携推進課	総合情報メディアセンター課	施設企画課			施設整備備課													

群馬大学

学術研究院

(平成26.4)
教員組織の一元化



資料編

役員・執行役員・副学長・学長特別補佐・特別教授・顧問

役員	
学 長	平 塚 浩 士
理事（教育・企画担当）	窪 田 健 二
理事（研究担当）	峯 岸 敬
理事（総務・財務担当）・事務局長	栗 山 雅 秀
理事（病院担当）・附属病院長	田 村 遵 一
理事（学長特命担当（男女共同参画）・非常勤）	本 多 悦 子
監事	岡 野 弘 文
監事（非常勤）	森 田 均

執行役員	
学 長	平 塚 浩 士
理事（教育・企画担当）	窪 田 健 二
理事（研究担当）	峯 岸 敬
理事（総務・財務担当）	栗 山 雅 秀
理事（病院担当）	田 村 遵 一
理事（学長特命担当（男女共同参画）・非常勤）	本 多 悦 子
教育学部長	齋 藤 周
社会情報学部長	柿 本 敏 克
医学系研究科長	石 崎 泰 樹
保健学研究科長	村 上 博 和
理工学府長	関 庸 一
生体調節研究所長	泉 哲 郎
総合情報メディアセンター長	田 中 麻 里

副 学 長	
理事（教育・企画担当）	窪 田 健 二
理事（研究担当）	峯 岸 敬
理事（総務・財務担当）	栗 山 雅 秀
男女共同参画推進室長	工 藤 貴 子
国際センター長	末 松 美知子
企画戦略室長	花 屋 実
WHO連携・医療安全	渡 邊 秀 臣
重粒子	中 野 隆 史

学長特別補佐	
医学系研究科教授	西 山 正 彦
医学系研究科教授	鈴木 和 浩
理工学府教授	山 崎 浩 一
理工学府教授	柏 谷 健 一
教育学部教授	佐 野 史
理工学府教授	石 間 経 章
社会情報学部准教授	新 井 康 平
理工学府教授	園 山 正 史
理工学府教授	板 橋 英 之
保健学研究科教授	林 邦 彦

特別教授（非常勤）	
	富 山 慶 典
	桑 野 博 行

顧 問（非常勤）	
元群馬大学長（第9代）	赤 岩 英 夫
元群馬大学長（第10代）	鈴木 守
元群馬大学長（第11代）	高 田 邦 昭

学長選考会議・経営協議会・教育研究評議会

学長選考会議	
経営協議会	加 藤 則 子 十文字学園女子大学副学長
経営協議会	曾 我 孝 之 前橋商工会議所会頭
経営協議会	高 橋 康 三 株式会社上毛新聞社相談役
経営協議会	中 村 秀 一 一般社団法人医療介護福祉政策研究フォーラム理事長
評議員	石 崎 泰 樹 医学系研究科長
評議員	関 庸 一 理工学府長
評議員	柿 本 敏 克 社会情報学部長
評議員	村 上 博 和 保健学研究科長

※国立大学法人群馬大学学長選考会議規則第3条第3項に係る委員を除く。

経営協議会	
1. 議長	平 塚 浩 士 学長
2. 学外委員	加 藤 則 子 十文字学園女子大学副学長
	齋 藤 一 雄 株式会社群馬銀行代表取締役頭取
	曾 我 孝 之 前橋商工会議所会頭
	反 町 敦 群馬県副知事
	高 橋 康 三 株式会社上毛新聞社相談役
	中 村 秀 一 一般社団法人医療介護福祉政策研究フォーラム理事長
3. 学内委員	窪 田 健 二 理事（教育・企画担当）
	峯 岸 敬 理事（研究担当）
	栗 山 雅 秀 理事（総務・財務担当）・事務局長
	田 村 遵 一 理事（病院担当）・附属病院長

教育研究評議会	
1. 議長	平 塚 浩 士 学長
2. 評議員	窪 田 健 二 理事（教育・企画担当）
	峯 岸 敬 理事（研究担当）
	栗 山 雅 秀 理事（総務・財務担当）
	田 村 遵 一 理事（病院担当）・附属病院長
	本 多 悦 子 理事（学長特命担当（男女共同参画）・非常勤）
	齋 藤 周 教育学部長
	柿 本 敏 克 社会情報学部長
	石 崎 泰 樹 医学系研究科長
	村 上 博 和 保健学研究科長
	関 庸 一 理工学府長
	泉 哲 郎 生体調節研究所長
	田 中 麻 里 総合情報メディアセンター長
	西 園 大 実 教育学部教授
	森 谷 健 社会情報学部教授
	小 湊 慶 彦 医学系研究科教授
	横 山 知 行 保健学研究科教授
	石 間 経 章 理工学府教授
	佐 藤 健 生体調節研究所教授

学部長等

平成30年4月1日現在

教育学部			
学部長	齋藤	周一	
事務長	加上	真子	
附属学校教育臨床総合センター長	藤原	景子	
附属幼稚園長	上林	耕史	
附属小学校長	吉田	秀文	
附属中学校長	益田	裕充	
附属特別支援学校長	藤森	健太郎	
社会情報学部			
学部長	柿本	敏克	
事務長	安部	則行	
医学部			
学部長	石崎	泰樹	
大学院医学系研究科			
研究科長	石崎	泰樹	
附属生物資源センター長	石白	智明	
附属薬剤耐性菌実験施設長	富田	治芳	
大学院保健学研究科			
研究科長	村上	博和	
医学部附属病院			
病院長	田村	遵一	
理工学部			
学部長	関庸	一夫	
事務長	石田	滋夫	
大学院理工学府			
学府長	関庸	一	
生体調節研究所			
所長	泉井	哲郎	
附属生体情報ゲノムリソースセンター長	北井	宏和	
附属代謝シグナル研究展開センター長	北村	忠弘	
附属生体情報シグナル研究センター長	北村	哲郎	
総合情報メディアセンター			
センター長（図書館長）	田中	麻里	
大学教育・学生支援機構			
機構長	窪田	健二	
副機構長	渡辺	秀司	
大学教育センター長	窪田	健二	
学生支援センター長	窪田	健二	
学生受入センター長	窪田	健二	
健康支援総合センター長	窪田	健二	
教育改革推進室長	窪田	健二	
研究・産学連携推進機構			
機構長	峯岸	敬之	
副機構長	板橋	英敬	
研究・産学連携戦略本部長	峯岸	敬之	
URA室長	峯岸	敬之	
産学連携ワンストップサービスオフィス室長	板橋	英敬	
高度研究推進・支援部門長	花屋	実馨	
高度研究戦略室長	花屋	実馨	
機器分析センター長	若松	修一	
高度人材育成部門長	花柏	健一	
高度人材育成センター長	花柏	健一	
研究支援人材育成コンソーシアム室長	伊藤	正実	
産学連携・知的財産部門長	石間	経章	

産学連携・知的財産活用センター長	佐藤	和浩	
リスクマネジメント室長	西村	淑子	
次世代モビリティ社会実装研究センター長	太田	直哉	
重粒子線医学推進機構			
機構長	峯岸	敬史	
重粒子線医学研究センター長	中野	隆一	
重粒子線医学センター長	田村	遵一	
国際センター			
センター長	末松	美知子	
数理データ科学教育研究センター			
センター長	山崎	浩一	
食健康科学教育研究センター			
センター長	粕谷	健一	
男女共同参画推進室			
室長	工藤	貴子	
未来先端研究機構			
最高責任者	平塚	浩士	
統括責任者	塚岸	敬	
監査室 法務・コンプライアンス室			
監査室長	塚本	一文	
法務・コンプライアンス室長	塚本	一文	
事務局			
事務局長・副学長	栗山	雅秀	
総務部長	松山	文彦	
総務課長	青根	宏明	
人事労務課長	高曾	和秀	
企画評価課長	高坂	淳一	
財務部長	松本	博幸	
財務課長	吉井	博幸	
経理課長	町田	川司	
学務部長	大田	雄順	
教務課長	田村	あざさ	
学生支援課長	青木	橋徳	
学生受入課長	高橋	敬（兼任）	
研究推進部長	岸野	道明	
研究推進課長	中渡	英正	
産学連携推進課長	田中	泰弘	
総合情報メディアセンター課長	渡辺	弥昭	
施設運営部長	上野	哲良	
施設企画課長	田澤	保幸	
施設整備課長	吉深	秋秀	
国際課長	石川	幸一	
調査役	今泉	幸一	
調査役（兼任）	今泉	幸一	
昭和地区事務局			
事務部長	西今	英一	
次長	飯塚	秀好	
総務課長	笠井	明久	
学務課長	一高	幸仁	
経営企画課長	星野	幸仁	
管理運営課長	尾内	幸仁	
医事課長			
医療安全推進室長			

職員の数

平成30年4月1日現在（人）

区 分	役 員		教 授		准教授		講 師		助 教		助 手		教 諭		義 護 教 諭		事務等技術職員		合 計
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	
教 育 学 部			24	6	25	14	5	1					56	30		4	12	7	184
大学院教育学研究科			7		1			1											9
社 会 情 報 学 部			11	2	14				1	1	1						6	2	38
医 学 部																	7	8	15
大学院医学系研究科			38		20	2	13	6	53	17									149
大学院保健学研究科			18	12	4	6	5	6	7	19									77
医学部附属病院			1		9	1	28	4	104	38							208	780	1,173
理 工 学 部																	40	19	59
大学院理工学府			68	2	76	2	2		35	6	1						1		193
生体調節研究所			8	1	6	1	1		12	4							2	2	37
総合情報メディアセンター			1					1									4		6
大学教育・学生支援機構			3	1	5	1	1	1										1	13
研究・産学連携推進機構			1		1			1									6	1	10
重粒子線医学推進機構			3					1	10	1									15
国 際 セ ン タ ー			1		1			2											5
数理データ科学教育研究センター					1				1										2
食健康科学教育研究センター							1	1											2
男女共同参画推進室								1											1
未来先端研究機構			2		2			1	2	3									10
事 務 局 等	6																108	37	151
昭 和 地 区 事 務 部																	70	93	163
合 計	6		186	24	165	27	60	24	225	89	2		56	30		4	464	950	2,312

学部

平成30年4月1日現在（人）

学部	学 科 等		入学 定員	収容 定員	現 員																							
					1 年次			2 年次			3 年次			4 年次			5 年次			6 年次			計					
					男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計			
教育学部	学校教育教員養成課程		220	880	110	128	238	97	131	228	101	129	230	114	128	242							422	516	938			
社会情報学部	社会 情 報 学 科		100	200	43	59	102	54	55	109	64	66	130										161	180	341			
	情 報 行 動 学 科		(10)	120							31			39	70							31	39	70				
	情 報 社 会 科 学 科		(10)	120							36			34	70							36	34	70				
	計		100 (20)	440	43	59	102	54	55	109	64	66	130	67	73	140							228	253	481			
医学部	医 学 科		108 [15]	723	75	36	111	94	54	148	89	36	125	95	43	138	81	36	117	74	34	108	508	239	747			
	保 健 学 科		160 (10)	660	33	129	162	37	130	167	31	135	166	25	138	163							126	532	658			
	計		268 [15] (10)	1,383	108	165	273	131	184	315	120	171	291	120	181	301	81	36	117	74	34	108	634	771	1,405			
理工学部	化学・生物化学科		160	640	85	89	174	91	84	175	90	83	173	94	72	166							360	328	688			
	機 械 知 能 シ ス テ ム 理 工 学 科		110	440	105	10	115	119	7	126	132	7	139	123	4	127							479	28	507			
	環 境 創 生 理 工 学 科		90	360	72	18	90	73	20	93	80	28	108	78	25	103							303	91	394			
	電 子 情 報 理 工 学 科		120	480	109	19	128	109	14	123	160	12	172	140	17	157							518	62	580			
	総 合 理 工 学 科※		30	120	28	5	33	22	9	31	17	14	31	27	7	34							94	35	129			
工学部	昼間 コース	応用化学・生物化学科									1			1									1	1				
		機械システム工学科						1			1												1	1				
		生産システム工学科									1			1									1	1				
		環境プロセス工学科									1			1									1	1				
		社会環境デザイン工学科									1			1			2						1	1		2		
		電気電子工学科																					0					
		情 報 工 学 科									2			2			1			1			2			3	1	
	コ ー ス 夜 間 主	生産システム工学科									3			3									3	0		3		
計		510(30)	2,040 [60]	399	141	540	415	134	549	481	144	625	470	127	597							1,765	546	2,311				
合 計		1,098 [15] (60)	4,743 [60]	660	493	1,153	697	504	1,201	766	510	1,276	771	509	1,280	81	36	117	74	34	108	3,049	2,086	5,135				

【 】内の数字は2年次編入学定員を表し、外数である。（ ）内の数字は3年次編入学定員を表し、外数である。理工学部の編入学定員は学科共通。

〔 〕内の数字は理工学部学科共通収容定員を表し、外数である。

※夜間主コース（フレックス制）

大学院

平成30年4月1日現在（人）

研 究 科 等			専 攻	入学 定員	収容 定員	現 員																	
						1 年 次			2 年 次			3 年 次			4 年 次			5 年 次			計		
						男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
教育学研究科	修 士 課 程	障害児教育専攻	3	6	2	2	4	1	3	4										3	5	8	
		教科教育実践専攻	20	40	12	7	19	17	12	29										29	19	48	
		小 計	23	46	14	9	23	18	15	33										32	24	56	
	専門職学位課程	教職リーダー専攻	16	32	7	8	15	8	5	13										15	13	28	
	計		39	78	21	17	38	26	20	46										47	37	84	
社会情報学研究科		社会情報学専攻	14	28	7	8	15	8	9	17										15	17	32	
医学系研究科	修 士 課 程	生命医科学専攻	15	30	4	4	8	8	5	13										12	9	21	
	博 士 課 程	医 科 学 専 攻	57	228	48	13	61	29	18	47	42	17	59	78	30	108				197	78	275	
	計		72	258	52	17	69	37	23	60	42	17	59	78	30	108				209	87	296	
保健学研究科	博士前期課程	保 健 学 専 攻	50	100	26	25	51	34	28	62										60	53	113	
	博士後期課程	保 健 学 専 攻	10	30							7	4	11	6	5	11	13	21	34	26	30	56	
	計		60	130	26	25	51	34	28	62	7	4	11	6	5	11	13	21	34	86	83	169	
理工学府	博士前期課程	物質・生命理工学教育プログラム	300	600	65	35	100	80	25	105										145	60	205	
		知能機械創製理工学教育プログラム			84	5	89	87	2	89										171	7	178	
		環境創生理工学教育プログラム			42	7	49	42	6	48										84	13	97	
		電子情報・数理教育プログラム			78	6	84	86	10	96										164	16	180	
		計	300	600	269	53	322	295	43	338										564	96	660	
	博士後期課程	物質・生命理工学領域	39	117							5	6	11	4	4	8	9	3	12	18	13	31	
		知能機械創製理工学領域									9	1	10	4		4	12		12	25	1	26	
		環境創生理工学領域									7	3	10	2	3	5	9	3	12	18	9	27	
		電子情報・数理領域									3		3	3	1	4	7	1	8	13	2	15	
		計	39	117	0	0	0	0	0	0	24	10	34	13	8	21	37	7	44	74	25	99	
	計		339	717	269	53	322	295	43	338	24	10	34	13	8	21	37	7	44	638	121	759	
工学研究科	博 士 課 程	旧専攻	工 学 専 攻													7		7	7	0	7		
			生 産 工 学 専 攻																				
			ナノ材料システム工学専攻																				
		小 計													7		7	7	0	7			
	計														7		7	7	0	7			
課程別内訳	修士課程及び博士前期課程		402	804	320	99	419	363	100	463									683	199	882		
	博士課程及び博士後期課程		106	375	48	13	61	29	18	47	73	31	104	97	43	140	57	28	85	304	133	437	
	専 門 職 学 位 課 程		16	32	7	8	15	8	5	13										15	13	28	
合 計			524	1,211	375	120	495	400	123	523	73	31	104	97	43	140	57	28	85	1,002	345	1,347	

専攻科

平成 30 年 4 月 1 日現在（人）

専 攻 科	専 攻	入学定員	収容定員	現 員		
				男	女	計
特別支援教育特別専攻科	重複障害教育専攻	15	15	2	14	16

入学志願状況 (平成30年度)

学 部	入学定員	入学志願者数				入学者数		
		男	女	計	倍率	男	女	計
教 育 学 部	220	418 (5)	412 (3)	830 (8)	3.8	110	127 (1)	237 (1)
社会情報学部	100	258 (8)	179 (4)	437 (12)	4.4	42 (1)	59	101 (1)
医 学 部	268	371 (1)	630 (1)	1,001 (2)	3.7	106	162	268
理 工 学 部	510	1,130 ⁽⁴⁶⁾ _[1]	342 ⁽⁶⁾ _[2]	1,472 ⁽⁵²⁾ _[3]	2.9	386 ⁽⁴⁾ _[1]	134 _[2]	520 ⁽⁴⁾ _[3]
計	1,098	2,177 ⁽⁶⁰⁾ _[1]	1,563 ⁽¹⁴⁾ _[2]	3,740 ⁽⁷⁴⁾ _[3]	3.4	644 ⁽⁵⁾ _[1]	482 ⁽¹⁾ _[2]	1,126 ⁽⁶⁾ _[3]

注：() 内の数字は私費外国人留学生入試を表し、外数である。

[] 内の数字はマレーシア政府派遣留学生を表し、外数である。

2年次編入学 (平成30年度)

学 部 等	入学定員	入学志願者数				入学者数		
		男	女	計	倍率	男	女	計
医学部医学科	15	180	95	275	18.3	8	7	15

3年次編入学 (平成30年度)

学 部 等	入学定員	入学志願者数				入学者数		
		男	女	計	倍率	男	女	計
社会情報学部	20	29	28	57	2.9	14	17	31
医学部保健学科	10	4	11	15	1.5	0	1	1
理 工 学 部	30	97	19	116	3.9	33 (3)	5	38 (3)
計	60	130	58	188	3.1	47 (3)	23	70 (3)

注：() 内の数字は理工学部・ハノイ工科大学ツイニング・プログラム入学者を表し、外数である。

学部入学者の出身地区別内訳

北海道 9	関東 876	中部 132	近畿 15	四国 5	九州 12
東北 60	茨城県 22	新潟県 25	三重県 2	徳島県 3	福岡県 1
青森県 10	栃木県 95	富山県 9	滋賀県 1	香川県 1	佐賀県 0
岩手県 18	群馬県 525	石川県 3	京都府 2	愛媛県 1	長崎県 2
宮城県 3	埼玉県 129	福井県 4	大阪府 1	高知県 0	熊本県 4
秋田県 13	千葉県 20	山梨県 5	兵庫県 5		大分県 0
山形県 8	東京都 60	長野県 36	奈良県 2	中国 9	宮崎県 3
福島県 8	神奈川県 25	岐阜県 10	和歌山県 2	鳥取県 3	鹿児島県 2
		静岡県 34		島根県 2	
		愛知県 6		岡山県 3	沖縄 5
				広島県 1	その他 3
				山口県 0	

平成 29 年度卒業・修了者数

学 部 区 分	学 部	大 学 院									専攻科	合 計
		修士課程			博士課程			専門職学位課程				
		男	女	小計	男	女	小計	男	女	小計		
教 育 学 部	222	14	11	25				6	13	19	17	283
社会情報学部	125	1	6	7								132
医 学 部	284	35	24	59	51	22	73					416
(医学)	124	6	6	12	47	17	64					
(保健)	160	29	18	47	4	5	9					
理 工 学 部	522	252	56	308	9	4	13					843
工 学 部	12	0	0	0	3	0	3					15
計	1,165	302	97	399	63	26	89	6	13	19	17	1,689

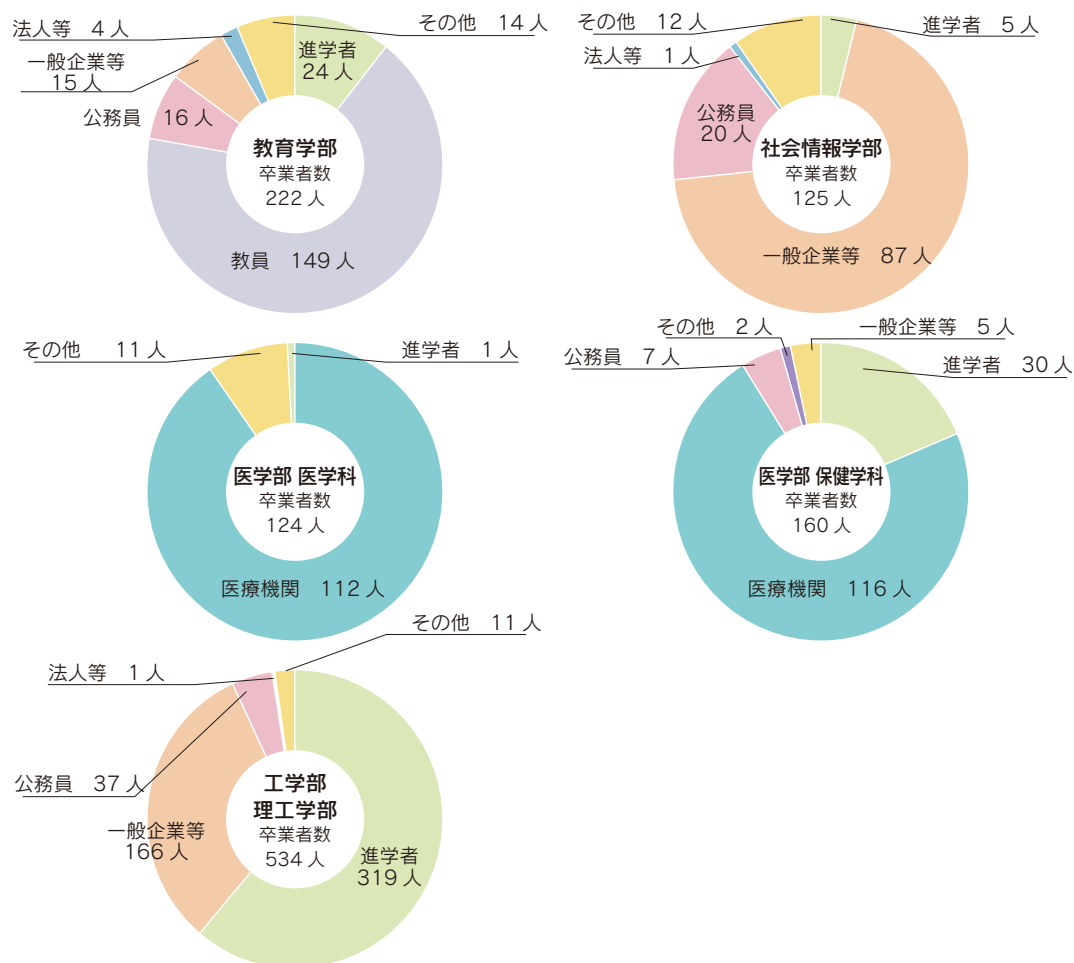
卒業・修了者数（累計）

学 部 区 分	学 部	大学院			専攻科	臨時教員 養成課程	2年課程	合 計
		修士課程	博士課程	専門職 学位課程				
教 育 学 部	17,088	990		143	404	235	1,419	20,279
社会情報学部	2,483	237						2,720
医 学 部	8,762	898	1,817					11,477
（医学）	5,641	110	1,701					
（保健）	3,121	788	116					
理 工 学 部	1,030	1,244	26					2,300
工 学 部	27,173	7,367	515		47			35,102
計	56,536	10,736	2,358	143	451	235	1,419	71,878
医療技術短期大学部	2,647				340			2,987
工業短期大学部	4,886							4,886

学位授与者数（累計）

種 類	計
博士（医学）	3,108
課程修了	1,701
論文提出	1,407
博士（保健学）	124
課程修了	116
論文提出	8
博士（理工学）	33
課程修了	26
論文提出	7
博士（工学）	642
課程修了	515
論文提出	127
修士（教育学）	990
修士（社会情報学）	237
修士（生命医科学）	110
修士（保健学）	788
修士（理工学）	1,244
修士（工学）	7,367
教職修士（専門職）	143

学部卒業者の進路状況（平成29年度 ※9月卒業者を含む）



大学院修了者の進路状況（平成29年度 ※年度内修了者を含む）

研究科		区分	修了者数	進学者数	就職者数							その他
					教員	医療機関	一般企業等	公務員	自営業	法人等	計	
教育学研究科	修士課程	修士課程	44		39		1	1		1	42	2
	専門職学位課程	専門職学位課程										
社会情報学研究科	修士課程	修士課程	7	1			5				6	1
	博士課程	博士課程										
医学系研究科	修士課程	生命医科学	12	3		3	4				10	2
	博士課程	医科学専攻	64	1	6	36	4				47	17
保健学研究科	博士前期課程	保健学専攻	47	7	5	25	2				39	8
	博士後期課程	保健学専攻	9		6	2					8	1
工学研究科	博士前期課程	工学専攻										
	博士後期課程	工学専攻	3				2				2	1
理工学府	博士前期課程	工学専攻	308	13			289	1			303	5
	博士後期課程	工学専攻	13				9				9	4
計			507	25	56	66	316	2	0	1	466	41

専攻科修了者の進路状況（平成29年度）

専攻科		区分	修了者数	進学者数	就職者数							その他
					教員	医療機関	一般企業等	公務員	自営業	法人等	計	
特別支援教育特別専攻科			17		16		1				17	

「国費」… 文部科学省国費外国人留学生

「私費」… 私費外国人留学生

※外国政府（マレーシア政府派遣など）の奨学金を受給する者及び JASSO の留学生対象奨学金、民間の奨学金を受給する者を含む。

国・地域別外国人留学生

平成30年4月1日現在（人）

地域・国名	区分	学部学生		大学院学生				研究生				特別聴講学生				特別研究学生		計		合計
		国費	私費	修士課程	博士課程	国費	私費	国費	私費	国費	私費	国費	私費	国費	私費	国費	私費	国費	私費	
アジア (13 か国 1 地域)	中国		11		51	4	17		10				11				4	4	104	108
	マレーシア	1	37															1	37	38
	インドネシア	4		2	2	3	12	1				2	2					12	16	28
	モンゴル		3	3	4	5	10		1			1						9	18	27
	ベトナム		7		7	3	2						3					3	19	22
	台湾				2								11				1	0	14	14
	タイ					3	2						1					3	3	6
	カンボジア	3			1													3	1	4
	スリランカ				2		1											0	3	3
	ネパール					2	1											2	1	3
	韓国	1					1											1	1	2
	インド						2											0	2	2
	フィリピン					2												2	0	2
	ラオス				1		1											0	2	2
小計		9	58	5	70	22	49	1	11	0	0	3	28	0	0	0	5	40	221	261
中近東 (2 か国)	シリア				1	1												1	1	2
	イラン					1												1	0	1
	小計	0	0	0	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	1	3
アフリカ (2 か国)	エジプト		1		1													0	2	2
	コートジボアール	1			1													1	1	2
	小計	1	1	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	3	4
北米 (1 か国)	アメリカ合衆国					1							3					1	3	4
	小計	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	1	3	4
ヨーロッパ (4 か国)	フランス												2					0	2	2
	ポーランド											1			1			1	1	2
	ハンガリー											1						1	0	1
	アゼルバイジャン														1			0	1	1
小計		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2	0	2	0	0	2	4	6
合 計 (22 か国 1 地域)		10	59	5	73	25	49	1	11	0	0	5	33	0	2	0	5	46	232	278
		学部合計		69		大学院合計		152		研究生合計		12		交換留学生など合計		45				

学部・研究科等別外国人留学生

教育学		1		1			1	1			3	16					4	19	23
社会情報学		1		19				5			2	9		2			2	36	38
医学		2		3	7	17	27										22	34	56
保健学				2	1		2										2	3	5
理工学		8	57		45	8	20		5			8				4	16	139	155
生体調節研究所																1	0	1	1

学生の海外派遣数

(平成29年4月～平成30年3月派遣)

地域	留学・派遣先 国名	教育学部	教育 研究科	社会 情報学部	医学部 医学科	医学系 研究科	医学部 保健学科	保健学 研究科	理工学部	理工学府	特別支援教育 特別専攻科	合計
アジア (7 か国 1 地域)	韓国	42	2	1						1	5	51
	台湾	4		4	1					1		10
	モンゴル						5	2				7
	インドネシア	2			4							6
	タイ			1	4				1			6
	マレーシア				1				5			6
	中国								5			5
	ベトナム		2						1	1		4
オセアニア (1 か国)	オーストラリア	17	1	3	2		13		23			59
北米 (1 か国)	アメリカ	12	3	1	1	1	6	1	6	1		32
	イギリス			2	1				15			18
ヨーロッパ (4 か国)	イタリア			1								1
	スロベニア			1			2					3
	フランス									1		1
総計		77	8	14	14	1	26	3	56	5	5	209

国際交流協定

国・地域	大学名	協定締結日	備考
アジア	西安交通大学	(平成 13.12. 4)	大学間協定
	廈門大学	(平成 14. 9.19)	〃
	沈阳化工大学	(平成 15. 3.31)	〃
	華北電力大学	(平成 17. 5.22)	〃
	大連医科大学	(平成 18. 7.12)	〃
	大連理工大学	(平成 19. 1.30)	〃
	大連工業大学	(平成 19. 9.26)	〃
	中国科学院過程工程研究所	(平成 20. 7.16)	〃
	重慶交通大学	(平成 21. 3.25)	〃
	海南大学	(平成 21. 7.29)	〃
	南開大学生命科学学院	(平成 14.11. 2)	学部間協定
	中山大学化学・化学工程学院	(平成 17.11. 2)	〃
	内蒙古大学生命科学学部	(平成 19. 2.13)	〃
	合肥工業大学（計器科学及光電工学院）	(平成 20. 2.23)	〃
	上海交通大学（機械工学部）	(平成 20. 3.25)	〃
	上海理工大学光学・電子情報工程学院	(平成 20. 7.28)	〃
	成都理工大学地質災害防止及び地質環境保護国家重点実験室	(平成 20.10. 8)	〃
	中国鉱業大学	(平成 21. 1.23)	〃
	東北大学理学院	(平成 21. 2.28)	〃
	清華大学機械工程学院	(平成 21. 3.29)	〃
	西南交通大学機械工学部	(平成 21. 7. 1)	〃
	湖南科技大学	(平成 21.10.16)	〃
	河北工業大学材料学院	(平成 22. 3.20)	〃
	揚州大学エネルギー源と動力工程学院	(平成 24. 6.26)	〃
	揚州大学情報工程学院	(平成 25. 3. 8)	〃
	廈門理工学院光電通信工程学院	(平成 25. 7.22)	〃
	天津大学精密儀器と光電子工学院	(平成 26.11. 7)	〃
	湖南大学生物学部	(平成 28. 1. 6)	〃
	中日友好病院	(平成 28. 1.21)	〃
	首都医科大学	(平成 28. 4.19)	〃
	揚州大学機械工程学院	(平成 28. 5.16)	〃
	江蘇科技大学	(平成 28.10.17)	〃
	中国科学院都市環境研究所	(平成 29. 3.23)	〃
	復旦大学	(平成 29. 4.13)	〃
	浙江工業大学	(平成 29. 5.10)	〃
	山東大学化学と化工学院	(平成 29. 5.23)	〃
中華人民共和国	嶺南大学校	(平成 15. 9. 5)	大学間協定
	建国大学校	(平成 19. 3. 6)	〃
	韓国原子力医学院	(平成 19.10.18)	〃
	ソウル大学校	(平成 20.10.27)	〃
	釜山大学校	(平成 28. 6.22)	〃
	全南国立大学ホルモン研究センター	(平成 8 .12. 4)	学部間協定
	ソウル科学技術大学校産業大学院	(平成 21. 1. 1)	〃
	韓国先端ケイ素材料研究教育センター	(平成 21. 2. 3)	〃
	韓国科学技術院ナノサイエンス研究部門	(平成 21. 2. 5)	〃
	壇国大学校光機能エネルギー材料センター	(平成 21. 5.22)	〃
	慶熙大学校工科大学	(平成 21.12.14)	〃
	延世大学校科学技術大学	(平成 24. 5. 2)	〃
	延世大学校工科大学	(平成 25. 1.30)	〃
	忠南大学校	(平成 27. 8.11)	〃
	仁済大学校	(平成 28. 2.29)	〃
	大邱大学	(平成 28. 3.29)	〃
大韓民国	東海大学	(平成 15. 6.27)	大学間協定
	国立台北教育大学	(平成 18. 3.24)	〃
	国立虎尾科技大学	(平成 25. 1.21)	〃
	龍華科技大学工程学院	(平成 18.12.13)	学部間協定
	義守大学医学部	(平成 26. 5.27)	〃
	国立勤益科技大学	(平成 27. 4.30)	〃
	世新大学	(平成 27.12.28)	〃
	国立交通大学工学部	(平成 30. 1. 2)	〃
	国立中央大学工学部・理学部	(平成 30. 1. 8)	〃
	フィリピン大学マニラ校	(平成 21. 2.16)	大学間協定
台湾	モンゴル国立医科大学	(平成 24.10. 5)	〃
	インド工科大学デリー校	(平成 22. 1.18)	〃
	マレーシア国立大学	(平成 21. 2.23)	学部間協定
	ペトロナス工科大学	(平成 25. 7.30)	〃
	バハム大学	(平成 26. 9. 9)	〃
	マラ技術大学トレンガヌ校	(平成 27. 6. 5)	〃
	マレーシア		
フィリピン			
モンゴル			
インド			
マレーシア			

国・地域	大学名	協定締結日	備考
ベトナム	ハノイ工科大学（機械工学部）	（平成 20. 1.23）	〃
	ベトナム原子力研究所ハノイ照射センター	（平成 25. 2.23）	〃
	ハノイ教育大学	（平成 29. 2. 8）	〃
インドネシア	バジャジャラン大学	（平成 8 . 9.20）	大学間協定
	インドネシア教育大学	（平成 21. 3.16）	〃
	バンドン工科大学数理・自然科学部	（平成 22.10.11）	学部間協定
	ジャカルタ州立大学	（平成 28. 7.13）	〃
	スマトラ工科大学	（平成 29. 5.12）	〃
シンガポール	南洋理工大学	（平成 27. 3.20）	大学間協定
バングラデシュ	ダッカ大学	（平成 22.12.12）	〃
	ダッフォディル国際大学工学部	（平成 29. 2. 8）	学部間協定
	ダッフォディル国際大学情報技術学部	（平成 29. 2. 8）	〃
タイ	チェンマイ大学	（平成 19. 9.11）	大学間協定
	モンクット王ラカバン工科大学	（平成 20.12.12）	学部間協定
	ラジャマンガラ工科大学産業工学部	（平成 21. 5.26）	〃
	泰日工業大学	（平成 21. 7.21）	〃
	マヒドン大学理学部	（平成 23. 2.22）	〃
	ナコンパトムラチャット大学理工学部	（平成 24. 2. 2）	〃
	チュラロンコン大学工学部	（平成 24.12. 4）	〃
	モンクット王トンプリ工科大学	（平成 25. 5.10）	〃
	ランシット大学	（平成 28. 1. 7）	〃
	ラジャマンガラ工科大学工学部	（平成 29. 5.12）	〃
	ラジャマンガラ工科大学産業工学部	（平成 29. 5.12）	〃
	ラジャマンガラ工科大学天然資源学部	（平成 29. 5.12）	〃
	ラジャマンガラ工科大学農工学部	（平成 29. 5.12）	〃
	ラジャマンガラ工科大学理文学部	（平成 29. 5.12）	〃
ヨーロッパ			
ハンガリー	カーロリ・ガースーパー・カルビン派大学	（平成 22. 3.17）	〃
スロベニア	リュブリャナ大学	（平成 20. 9.19）	大学間協定
ドイツ	ドイツ重イオン研究所ヘルムホルツセンター	（平成 20.11.18）	学部間協定
	ルール大学ボーフム医学部胸部・心疾患外科クリニック及び心臓・糖尿病センター	（平成 26. 9. 3）	〃
英国	グリンドウール大学	（平成 20 年度～）	大学間協定
	（旧北東ウェールズ高等教育インスティテュート）	（昭和 62. 3.17）	〃
フランス	地中海大学（マルセイユ大学Ⅱ）	（平成 17. 7.25）	大学間協定
	モンペリエ国立高等化学大学院	（平成 21. 2.11）	学部間協定
	高等科学技術学院	（平成 28. 4.20）	〃
	ESIEE バリ	（平成 29. 4.12）	〃
	モンペリエ大学／フランス国立保健医学研究機構／モンペリエがん研究センター／モンペリエがん研究所	（平成 29. 4.10）	〃
イタリア	フィレンツェ大学	（平成 15. 4.16）	大学間協定
アゼルバイジャン	バクー国立大学	（平成 21. 1.27）	大学間協定
ポーランド	ヤギェウオ大学	（平成 24. 3.29）	学部間協定
スウェーデン	ボロース大学工学部	（平成 24. 2.22）	〃
	カロリンスカ研究所	（平成 27.11.11）	〃
チェコ	オストラバ工科大学	（平成 27.10.29）	大学間協定
スペイン	バレンシア工科大学	（平成 26. 2.19）	学部間協定
オーストリア	ウィーン医科大学放射線治療教室	（平成 26. 4.14）	〃
クロアチア	ザグレブ大学人文社会学部	（平成 26. 7. 2）	〃
ベルギー	リエージュ大学医学部並びにゲノプロテオミックス学際応用グループ	（平成 26.10. 2）	〃
	リエージュ大学	（平成 27. 8.14）	〃
リトアニア	リトアニア教育大学	（平成 27.11.25）	〃
北米			
カナダ	ライアソン大学	（平成 24. 9.28）	〃
	ノースダコタ州立大学	（平成 22. 5.27）	大学間協定
	サンディエゴ州立大学	（平成 23. 3. 3）	〃
	ニューヨーク州立大学ストーニーブルック校	（平成 25. 7.12）	〃
アメリカ合衆国	シアトル・バシフィック大学	（平成 8 .10. 1）	学部間協定
	ワシントン大学（工学部）	（平成 18. 6.26）	〃
	マサチューセッツ総合病院 Francis H. Burr 陽子線治療センター／放射線腫瘍学科	（平成 20. 5. 6）	〃
	d/b/a メイヨクリニック メイヨクリニックロチェスター放射線腫瘍学科	（平成 20.10.23）	〃
	ピュージェット・サウンド大学大学院	（平成 23.10. 3）	〃
	ミズーリ州立大学	（平成 27. 3. 6）	〃
	モアヘッド州立大学	（平成 27.12.16）	〃
中南米			
ニカラグア	ニカラグア国立自治大学マナグア校	（平成 17. 7. 1）	大学間協定
コロンビア	サバナ大学	（平成 16. 4.20）	学部間協定
ブラジル	サンパウロ大学	（平成 21. 2.20）	大学間協定
オセアニア			
オーストラリア	ウーロンゴン大学	（平成 26. 7.15）	〃

教育学部附属学校

平成30年4月1日現在

区 分		総定員	現 員							
			1年生／ 3歳児	2年生／ 4歳児	3年生／ 5歳児	4年生	5年生	6年生	計	
教育学部	附 属 幼 稚 園	140	28	55	56				139	
	附 属 小 学 校	630	102	102	100	100	99	100	603	
	附 属 中 学 校	420	136	135	134				405	
	附属特別 支援学校	小学部	18	3	3	3	2	3	3	17
		中学部	18	6	5	6				17
		高等部	24	7	8	4				19
計		1,250	282	308	303	102	102	103	1,200	

医学部附属病院診療科及び患者数

診 療 科		区 分	平成29年度患者数(人)	
			入院患者	外来患者
内 科 系	循環器内科、呼吸器・アレルギー内科、消化器・肝臓内科、内分泌糖尿病内科、腎臓・リウマチ内科、血液内科、脳神経内科		52,042	127,838
外 科 系	循環器外科、呼吸器外科、消化管外科、乳腺・内分泌外科、肝胆膵外科、泌尿器科、歯科口腔・顎顔面外科、形成外科		59,500	101,463
感覚器・運動機能系	整形外科、皮膚科、眼科、耳鼻咽喉科		46,964	140,965
脳神経・精神・麻酔系	精神科神経科、麻酔科蘇生科、脳神経外科		25,271	26,514
小 児・女 性 系	小児科、小児外科、産科婦人科		24,726	39,654
放 射 線 系	放射線科、核医学科		8,213	32,546
計			216,716	468,980

※病床数：731 床（平成 30 年4月1日現在）
（診療科名は平成 29 年度のもの）

事業名	名称	主たる担当部署等	採択年度	内容
テニユアトラック普及・定着事業		教育学部	平成26年度～30年度	モデル事業により構築した体制と実績を活かしてテニユアトラック制による全学的人事制度改革を推し進める。
科学技術人材育成のコンソーシアムの構築事業	地域特性を活用した「多能工型」研究支援人材養成拠点	研究・産学連携推進機構	平成26年度～33年度	研究支援、産学官連携などの複数業務に関する実務能力を有し、研究プロジェクトの企画立案、立ち上げから成果の創出まで一貫通貫で関与することが可能な「多能工型」の研究支援人材育成を、近隣3大学（宇都宮・茨城・埼玉大）とともに開発・運営する教育プログラムを通して行う。
卓越研究員事業		理工学府 社会情報学部 食健康科学教育 研究センター	平成29年度～33年度	国に認定された卓越研究員が、若手研究責任者として研究テーマを自ら設定し研究を遂行できるような自立的研究環境のもと、新たな研究領域に挑戦し、独創的な成果を生み出す。
ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ【特色型】		男女共同参画推進室	平成29年度～34年度	女子学生や女性研究者への支援体制を途切れることなく継続し、優秀な女性研究者の獲得と上位職増加への取組、学内外のネットワークの構築とイノベーションの創出、魅力ある研究環境整備と継続させるための好循環の構築を目指す。
課題解決型高度医療人材養成プログラム	群馬一丸で育てる地域完結型看護リーダー	保健学研究科	平成26年度～30年度	地域での暮らしや看取りまでを見据えた看護が提供できる人材養成を推進し、わが国が抱える医療現場の諸課題に対して、科学的根拠に基づいた医療が提供でき、健康長寿社会の実現に寄与できる優れた医療人材養成に資するため、本学の取組事業により、特色ある教育プログラム・コースを構築し、全国に普及させ、これからの時代に応じた医療人材の養成を推進する。
多様なニーズに対応する「がん専門医療人材（がんプロフェッショナル）」養成プラン	関東がん専門医療人材養成拠点	医学系研究科	平成29年度～33年度	深い学際的教養と幅広い研究的視野を持って、新たな医療価値を創造するがん専門医療人を養成する。
基礎研究医養成活性化プログラム	病理・法医学教育イノベーションハブの構築	医学系研究科	平成29年度～33年度	千葉・群馬・山梨の三大学連携で病理・法医学研究医育成の教育プラットフォームを整備する。そして千葉大学の未来医療教育研究機構をモデルに病理・法医学の領域に大学院教育のハブを構築することによって、同領域の医師不足解消を目指す。
女子中高生の理系進路選択支援プログラム	女子高ネットワークを使った理工系進路選択支援プロジェクト	理工学部	平成29年度～30年度	これまで群馬県と栃木県を中心とした女子校で多数の講演会・出前授業・実験教室を行ってきた実績を基に、北関東地域の女子高校でネットワークを形成し、①校長・進路担当教員と本学教職員・女子学生との企画検討会、②女子生徒とその保護者を対象にした講演会、③実験教室、④サイエンスカフェ、⑤企業訪問の5つのプログラムを実施する。

地域貢献事業一覧(平成29年度)

担当学部等	学科等	担当者	事業名
教育学部		齋藤 周 学部長	教育改革・群馬プロジェクト
教育学部 理工学部 保健学研究科	理科教育講座 理科教育講座 分子科学部門 生体情報検査科学	日置 英彰 教授 大谷 龍二 准教授 中村 洋介 教授 嶋田 淳子 教授	科学の甲子園群馬県大会の開催
社会情報学部	社会情報学講座	西村 淑子 教授 岩井 淳 教授	ハンセン病・栗生楽泉園デジタルアーカイブ事業
医学系研究科 医学部附属病院 理工学府	麻酔神経科学講座 集中治療部 知能機械創製部門	齋藤 繁 教授 大嶋 清宏 教授 井上 雅博 准教授	群馬県の特性を生かした健康増進法啓蒙活動とスタッフ養成事業
医学系研究科	神経精神医学講座	福田 正人 教授	ユースメンタルヘルス向上のために 県内ネットワークの構築
保健学研究科	生体情報検査科学 看護学 看護学	横山 知行 教授 佐藤 由美 教授 牛久保 美津子 教授 他	学生保健サポーターによる『群大保健学まちなか交流サロン』
理工学府	知能機械創製部門	白石 洋一 准教授 茂木 和弘 助教 中沢 信明 准教授	プログラミング教育に対する教員のスキル向上のための実習（小学校におけるプログラミング教育必修化のための教員向け実習）
理工学府	知能機械創製部門 知能機械創製部門 知能機械創製部門 電子情報・数理部門	藤井 雄作 教授 中沢 信明 准教授 田北 啓洋 助教 太田 直哉 教授	e自警ネットカメラによる福祉施設の見守り
生体調節研究所 重粒子線医学推進機構	分子糖代謝制御分野 重粒子線医学研究センター	藤谷 与士夫 教授 取越 正己 副センター長	最先端生命科学セミナー (生命科学のフロンティアへようこそ)
総合情報メディアセンター		田中 麻里 センター長	荒牧祭特別展示「尾崎喜左雄博士古遺物特別展～図書館に広がる古代群馬の世界～Part2」

公開講座(平成30年度)

Aコース「一般の方」対象

講座名	期間及び時間数	募集人数
企業・産業分析スキル特論(金融ビジネスの基礎から実務まで)	9日間(22.5時間)	28人
留学生とともに学ぶ「異文化間コミュニケーショントレーニング」入門講座	2日間(4時間)	20人
Eビデンスに基づく議論	1日間(6時間)	5人
社会起業家特論(先端応用情報学特講A・B)	9日間(22.5時間)	26人
Rで学ぶ統計学の基礎	2日間(12時間)	10人
Rによる統計分析入門	2日間(12時間)	10人

Bコース「専門技術者等」対象

講座名	期間及び時間数	募集人数
医療者のための臨床倫理 方法論入門(総論編)	1日間(2時間)	30人
医療者のための臨床倫理 方法論入門(各論編)	1日間(2時間)	30人
高校生サイエンスインストラクター育成プログラム	2日間(12時間)	25人

開放講座(平成30年度)

Aコース「一般の方」対象

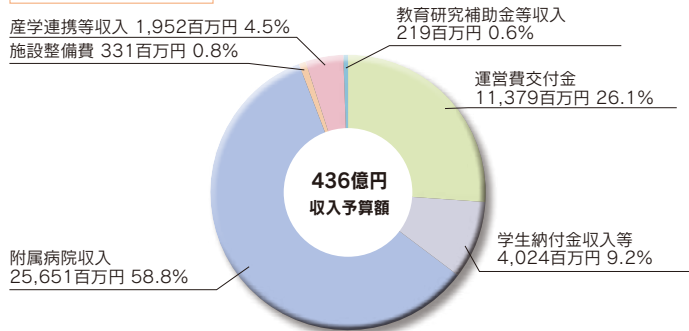
講座名	期間及び時間数	募集人数
世界脳週間2018	1日間(5時間)	100人
トークカフェatPLUS+アンカー サイエンスカフェin桐生①～⑥	6日間(9時間)	各20人
トークカフェatPLUS+アンカー アートカフェin桐生①～⑥	6日間(9時間)	各20人
国際協力、はじめの一歩!	1日間(5時間)	20人
地域の伝統文化に親しもう 人形芝居のたのしみ	1日間(2.5時間)	100人
「大河ドラマ」の誘致(「映像作品と地域活性化」を考える)	1日間(1.5時間)	20人
途上国!行ってみたらこんなトコ!	1日間(2時間)	50人
意思決定の不思議な世界!	1日間(2時間)	20人
チョコレートのおいしさを科学する-実験して確かめるテンパリング-	1日間(2.5時間)	10人
電気を安全に扱うために	1日間(2時間)	20人
まちなかキャンパス・ここできか聞けない医学・科学のあれこれ	10日間(15時間)	各50人
「細菌」～人に病気を起こす生物としての細菌について～	1日間(2時間)	50人

Bコース「専門技術者等」対象

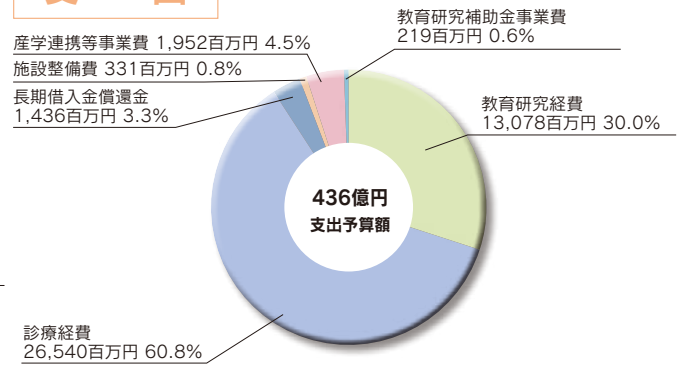
講座名	期間及び時間数	募集人数
英語教師の英語力アップ講座1:英語で授業を行うための「発音力UP」ワークショップ	1日間(2時間)	25人
英語教師の英語力アップ講座2:英語で授業を行うための「流暢さUP」ワークショップ	1日間(2時間)	40人
中高生のための医療・看護倫理入門	1日間(2時間)	30人
手話で学ぶ教養講座	1日間(4.5時間)	人数制限なし
からだであそぼう!! からだでうたおう!! みんなでまなぼう!!①～⑤	5日間(12時間)	各20人

平成30年度収入・支出予算額

収入



支出



研究費等受入状況

科学研究費助成事業 (平成30年度)

平成30年4月25日現在 (千円)

研究種目	件数	金額
新学術領域研究	11	67,100
基盤研究 (A)	2	14,800
基盤研究 (B)	48	190,200
基盤研究 (C)	237	247,700
挑戦的萌芽研究	11	6,500
挑戦的研究 (萌芽)	4	8,700
若手研究 (A)	3	7,800

研究種目	件数	金額
若手研究 (B)	47	49,400
若手研究	34	47,500
研究成果公開促進費	1	1,300
研究活動スタート支援	3	2,800
奨励研究	1	530
特別研究員奨励費	13	11,500
計	415	655,830

厚生労働科学研究費補助金 (平成29年度)

研究種目	件数	金額
政策科学総合研究事業	1	600
がん対策推進総合研究事業	2	8,648
難治性疾患等政策研究事業	10	2,800
障害者政策総合研究事業	1	4,200
エイズ対策政策研究事業	1	10,000

研究種目	件数	金額
地域医療基盤開発推進研究事業	6	530
食品の安全確保推進研究事業	1	2,200
医薬品・医療機器等レギュラトリーサイエンス政策研究事業	1	350
計	23	29,328

補助金等 (平成29年度)

区分	件数	金額
大学改革推進等補助金	2	20,846
研究拠点形成費等補助金	4	250,730
科学技術人材育成費補助金	4	84,523
国立大学改革強化推進補助金	1	46,500
国立大学法人機能強化促進補助金	1	40,565
地域産学官連携科学技術振興事業費補助金	1	449,990
地域産学官連携科学技術振興拠点施設整備費補助金	1	450,000
国宝重要文化財等保存整備費補助金	1	33,909

区分	件数	金額
群馬県感染症指定医療機関運営事業費補助金	1	9,258
群馬県地域医療介護総合確保基金事業費補助金	3	4,721
群馬県救急医療施設運営費等補助金	1	2,316
群馬県災害医療対策事業費補助金	1	7
医療研究開発推進事業費補助金	2	20,477
中小企業経営支援等対策費補助金	3	6,456
日本財団助成金	1	15,570
計	27	1,435,868

寄附金 (平成29年度)

区分	件数	金額
寄附金	2,135	786,829

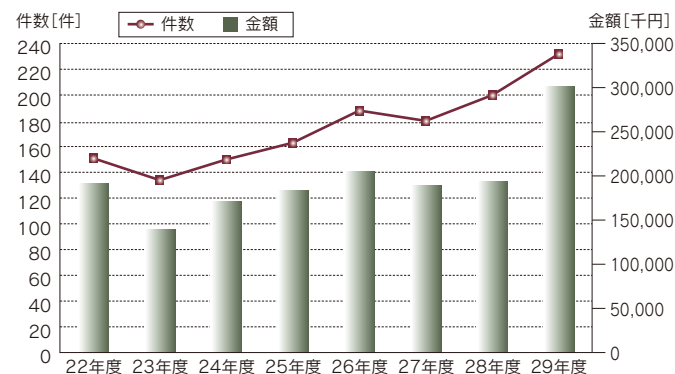
共同研究 (平成29年度)

区分	件数	金額
共同研究	232	301,619

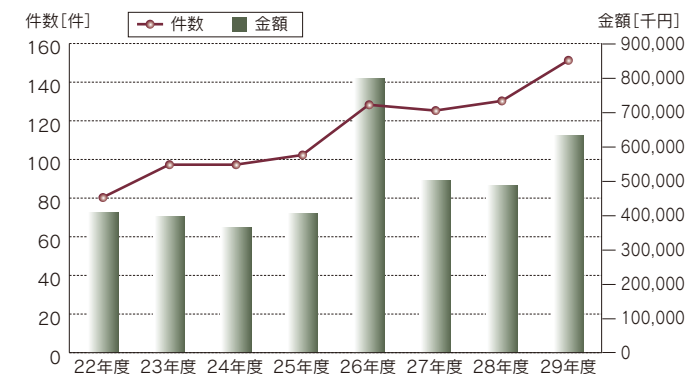
受託研究 (平成29年度)

区分	件数	金額
受託研究	151	629,933

民間等との共同研究受入状況



民間等との受託研究受入状況



※()内の数字は借用面積で外数。

42 GUNMA UNIVERSITY

符号	学部等の名称	所在地	電話
A	事務部		(027)220-7005 (総務係)
	財務部		(027)220-7044 (総務・監査係)
	学務部		(027)220-7125 (総務係)
	研究推進部	〒371-8510 前橋市荒牧町 4-2	(027)220-7512 (総括係)
	施設運営部		(027)220-7084 (企画・総務係)
	荒牧地区環境美化室		(027)220-7017
	教育学部		(027)220-7204 (総務係)
	〃 附属学校教育臨床総合センター		
	〃 附属幼稚園	〒371-0032 前橋市若宮町 2-5-3	(027)231-3170
	〃 附属小学校	〒371-0032 前橋市若宮町 2-8-1	(027)231-2804 (代)
	〃 附属中学校	〒371-0052 前橋市上沖町 612	(027)231-3023 (代)
	〃 附属特別支援学校	〒371-0032 前橋市若宮町 2-8-1	(027)232-9758
	大学院教育学研究科	〒371-8510 前橋市荒牧町 4-2	(027)220-7204 (総務係)
	社会情報学部	〒371-8510 前橋市荒牧町 4-2	(027)220-7403 (総務係)
	大学院社会情報学研究科		
	医学部		
	大学院医学系研究科		
	〃 附属生物資源センター	〒371-8511 前橋市昭和町 3-39-22	
	〃 附属薬剤耐性菌実験施設		
	〃 附属教育研究支援センター		(027)220-7111 (代)
	〃 附属医学教育センター		
	大学院保健学研究科	〒371-8514 前橋市昭和町 3-39-22	
	〃 附属保健学研究・教育センター		
	医学部附属病院	〒371-8511 前橋市昭和町 3-39-15	
B F	理工学部	桐生キャンパス 〒376-8515 桐生市天神町 1-5-1	(0277)30-1111 (代)
		太田キャンパス 〒373-0057 太田市本町 29-1	(0276)50-2231 (代)
A	理工学府附属元素科学 国際教育研究センター	桐生キャンパス 〒376-8515 桐生市天神町 1-5-1	(0277)30-1111 (代)
	生体調節研究所		
	〃 附属生体情報ゲノム リソースセンター		
	〃 附属代謝シグナル 研究展開センター	〒371-8512 前橋市昭和町 3-39-15	(027)220-7111 (代)
	〃 附属生体情報シグナル 研究センター		
	総合情報メディアセンター 中央図書館	〒371-8510 前橋市荒牧町 4-2	(027)220-7185
	〃 情報基盤部門	〒371-8510 前橋市荒牧町 4-2	(027)220-7391
	〃 医学図書館	〒371-8513 前橋市昭和町 3-39-22	(027)220-7889
	〃 情報基盤部門昭和分室		(027)220-8105

符号	学部等の名称	所在地	電話
B	総合情報メディアセンター 理工学図書館	〒376-8516 桐生市天神町 1-5-1	(0277)30-1079
	〃 情報基盤部門桐生分室		(0277)30-1161
A	大学教育・学生支援機構 大学教育センター		(027)220-7129
	〃 学生支援センター		(027)220-7136
	〃 学生受入センター	〒371-8510 前橋市荒牧町 4-2	(027)220-7149
	〃 健康支援総合センター		(027)220-7163
	教育改革推進室		(027)220-7123
	研究・産学連携推進機構 研究・産学連携戦略本部	〒371-8510 前橋市荒牧町 4-2	
	〃 U R A 室		(027)220-7111 (代)
	〃 産学連携ワンストップサービスオフィス		
	〃 高度研究推進・支援部門 高度研究戦略室		
	〃 機器分析センター		
B	〃 高度人材育成部門 高度人材育成センター	〒376-8515 桐生市天神町 1-5-1	(0277)30-1111 (代)
	〃 研究支援人材育成コンソーシアム室		
	〃 産学連携・知的財産部門 産学連携・知的財産活用センター		
	〃 リスクマネジメント室		
	〃 次世代モビリティ社会実装研究センター	〒371-8510 前橋市荒牧町 4-2	(027)220-7111 (代)
	〃 多職種連携教育 研究研修センター	〒371-8511 前橋市昭和町 3-39-22	(027)220-7111 (代)
	〃 重粒子線医学推進機構 重粒子線医学研究センター	〒371-8511 前橋市昭和町 3-39-15	
	〃 国際センター		(027)220-7628
	〃 数理データ科学教育研究センター	〒371-8510 前橋市荒牧町 4-2	(027)220-7633
	〃 食健康科学教育研究センター		(027)220-7633
C D E	〃 未来先端研究機構	〒371-8511 前橋市昭和町 3-39-22	(027)220-7111 (代)
	〃 共同利用設備統括センター	〒376-8515 桐生市天神町 1-5-1	(0277)30-1111 (代)
	〃 男女共同参画推進室	〒371-8510 前橋市荒牧町 4-2	(027)220-7111 (代)
	〃 伊香保研修所	〒377-0102 渋川市伊香保町 伊香保字香湯 14-1	(0279)72-4605
	〃 草津共同利用研修施設	〒377-1711 吾妻郡草津町大字草津字白根 737	(0279)88-2212
	〃 北軽井沢研修所	〒377-1412 吾妻郡長野原町北軽井沢 字南木山大楢 2032-242	(0279)84-2273

荒牧地区 【所在地：前橋市荒牧町4-2】



- ① 教育学部 学校教育臨床総合センター、食健康科学教育研究センター
- ② 総合情報メディアセンター（中央図書館／情報基盤部門）
- ③ 総合情報メディアセンター（情報基盤部門 荒牧センター）
- ④ 教職員等宿舎
- ⑤ 基幹棟（中会議室他）
- ⑥ 健康支援総合センター
- ⑦ 荒牧地区環境美化室
- ⑧ 電話交換室
- ⑨ 倉庫
- ⑩ 事務局 研究・産学連携推進機構
- ⑪ 守衛所
- ⑫ 社会情報学部
- ⑬ 学生センター（教養教育GA棟）大学教育・学生支援機構
- ⑭ 教養教育GB棟・GC棟、数理データ科学教育研究センター
- ⑮ 教養大講堂
- ⑯ 体育館・武道館
- ⑰ 大学会館「アザレア」／ミューズホール／国際センター
- ⑱ キャリアサポート室
- ⑲ 体育管理施設
- ⑳ 課外活動共用施設
- ㉑ 合宿研修施設
- ㉒ 憩いの広場
- ㉓ 中央モール
- ㉔ 遊歩道
- ㉕ 次世代モビリティ社会実装研究センター

昭和地区 【所在地①：前橋市昭和町3-39-15（医学部附属病院ほか）】
【所在地②：前橋市昭和町3-39-22（医学部・生体調節研究所ほか）】



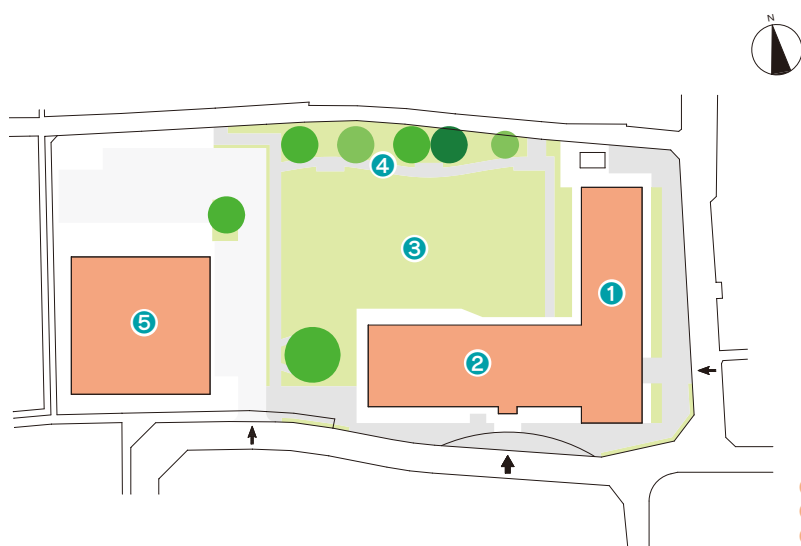
- ① 医学部保健学科
- ② 学生食堂
- ③ 看護師宿舎
- ④ 中央機械室
- ⑤ 生体調節研究所／代謝シグナル研究展開センター
生体情報シグナル研究センター
- ⑥ RI研究棟
- ⑦ 特高受電室
- ⑧ 生体情報ゲノムリソースセンター
- ⑨ 生物資源センター（1）
- ⑩ 生物資源センター（2）
- ⑪ 医学部（臨床研究棟）（1F：黒梅ホール）
- ⑫ 医学部（基礎医学棟）
- ⑬ 基礎講義棟
- ⑭ 刀城会館（記念会館）
- ⑮ 総合情報メディアセンター医学図書館（1F：情報基盤部門昭和分室）
- ⑯ 共用施設棟
- ⑰ 臨床講堂
- ⑱ 特別診療棟
- ⑲ 診療棟1
- ⑳ 診療棟3
- ㉑ 診療棟2
- ㉒ 北病棟
- ㉓ 南病棟
- ㉔ 外来診療棟
- ㉕ 課外活動施設、体育館
- ㉖ プロジェクト棟（1F：石井ホール、4～5F：重粒子線医学研究センター）
- ㉗ 中央診療棟
- ㉘ 立体駐車場 南
- ㉙ 重粒子線医学センター（重粒子線照射施設）
- ㉚ 院内保育所（ゆめのご保育園）
- ㉛ アメニティモール
- ㉜ 東棟
- ㉝ 発電機室
- ㉞ 立体駐車場 北

桐生地区 【所在地：桐生市天神町1-5-1】



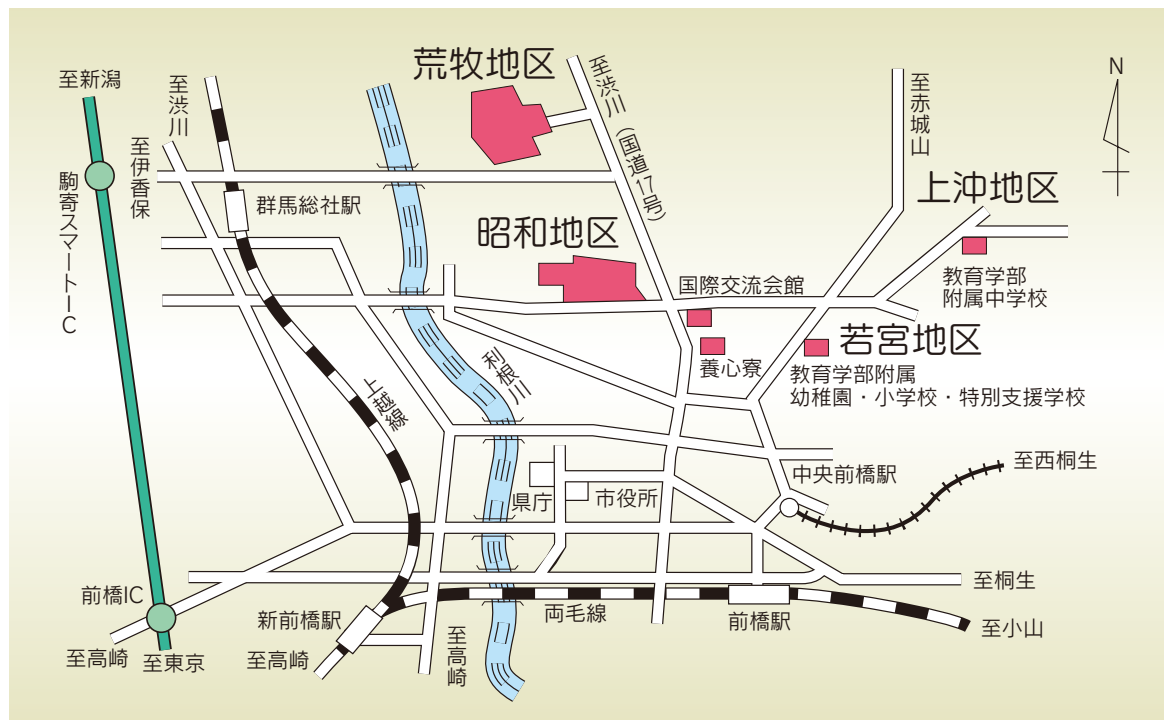
- ① A棟／研究・産学連携推進機構
- ② B棟／研究・産学連携推進機構
- ③ C棟／研究・産学連携推進機構
- ④ 同窓記念会館
- ⑤ 車庫
- ⑥ 工学部会館
- ⑦ 環境保全支援センター
- ⑧ 7号館
- ⑨ 実験棟
- ⑩ 1号館
- ⑪ 講義棟
- ⑫ 4号館
- ⑬ 5号館
- ⑭ 総合情報メディアセンター／理工学図書館
- ⑮ プロジェクト棟
- ⑯ 電子計算機棟
- ⑰ 6号館
- ⑱ 2号館
- ⑲ 基幹棟
- ⑳ 3号館
- ㉑ 8号館N棟
- ㉒ 8号館S棟
- ㉓ 危険薬品庫
- ㉔ 特別実験棟
- ㉕ RI実験施設 1,2
- ㉖ 原動機棟
- ㉗ 研究推進支援センター
- ㉘ 医理工共用研究棟
- ㉙ 体育館
- ㉚ 合宿所
- ㉛ 課外活動施設
- ㉜ 総合研究棟／機器分析センター
- ㉝ 総合情報メディアセンター情報基盤部門桐生分室

太田地区 【所在地：太田市本町29-1】



- ① 大学院研究棟
- ② 産学研究棟
- ③ 交流広場
- ④ 散策路
- ⑤ ものづくりイノベーションセンター

荒牧、昭和、若宮、上沖地区



荒牧地区

- JR
JR両毛線にて前橋駅下車、北方へ8Km
JR上越線・吾妻線にて新前橋駅下車、北方へ8.4Km
- バス
JR前橋駅北口2番乗り場（関越交通バス）
 - ・群馬大学荒牧経由渋川市内循環渋川駅行、小児医療センター行「群馬大学荒牧」下車（所要時間約28分）
 - ・渋川駅行、渋川市内循環渋川駅行「前橋自動車教習所前」下車（所要時間約25分＋徒歩10分）

若宮地区

- JR
JR両毛線にて前橋駅下車、北方へ2Km
- バス
JR前橋駅北口3番乗り場
 - ・総合スポーツセンター方面行、湯の道利久行、群馬総社駅行「附属小前」下車（所要時間約8分）（日本中央バス）
- JR前橋駅北口6番乗り場
 - ・富士見温泉行「附属小前」下車（所要時間約9分）（関越交通バス・日本中央バス）
 - ・国立赤城青少年交流の家行「附属小前」下車（所要時間約9分）（関越交通バス）
 - ・嶺公園行、小坂子行、荻窪公園行「附属小前」下車（所要時間約6分）（永井バス）

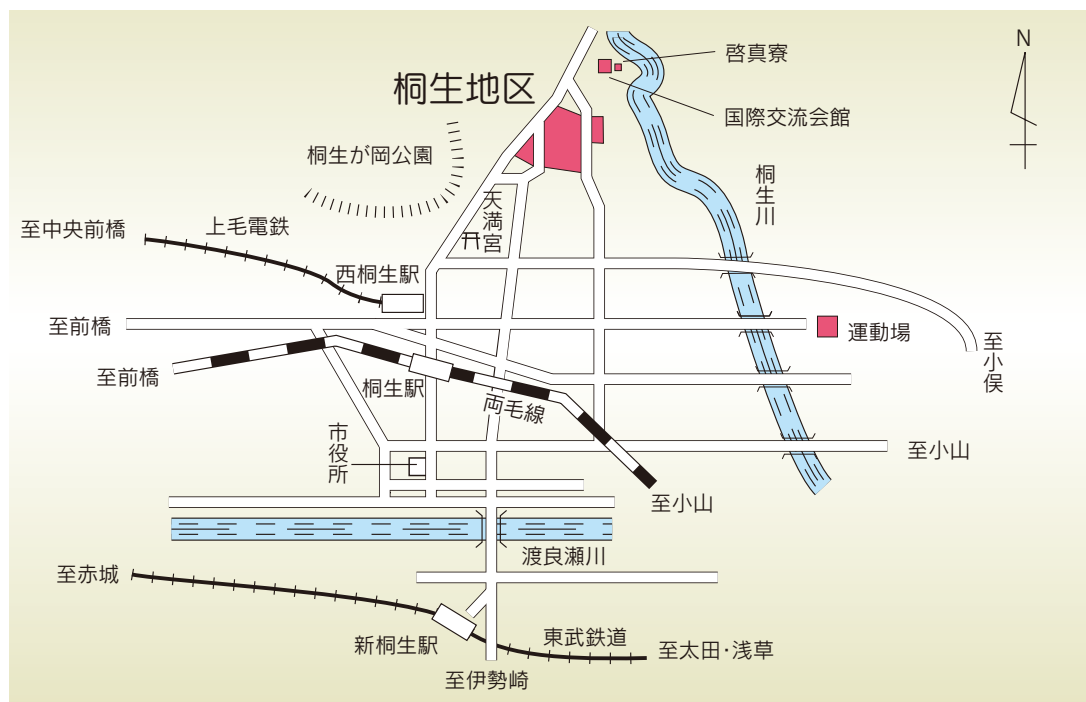
昭和地区

- JR
JR両毛線にて前橋駅下車、北方へ4Km
JR上越線・吾妻線にて新前橋駅下車、北方へ5.1Km
- バス
JR前橋駅北口2番乗り場（関越交通バス）
 - ・全線「群大病院入口」下車（所要時間約13分＋徒歩6分）
 - ・群大病院行・群大病院経由群馬大学荒牧行、群大病院・南橘団地経由群馬大学荒牧行、群大病院経由南橘団地行「群大病院」下車（所要時間約15分）
- JR前橋駅北口3番乗り場（日本中央バス）
 - ・総合スポーツセンター行、湯の道利休行「群大病院」下車（所要時間約15分）

上沖地区

- JR
JR両毛線にて前橋駅下車、北方へ4Km
- バス
JR前橋駅北口6番乗り場
 - ・富士見温泉行「北代田」下車（所要時間約9分＋徒歩15分）（関越交通バス）
 - ・嶺公園行「県営住宅前」下車（所要時間約11分＋徒歩10分）（永井バス）

桐生地区



桐生地区

JR

JR両毛線にて桐生駅下車、北方へ2.5Km
東武桐生線にて新桐生駅下車、北方へ4.1Km

バス

JR 桐生駅北口乗り場（おりひめバス）
・ 桐生女子高前行・上菱団地行・梅田ふるさとセンター前行「群馬大学桐生正門前」下車（所要時間約7分）
・ 菱線右回り「群馬大学桐生東門前」下車（所要時間約7分）
東武新桐生駅乗り場（おりひめバス）
・ 桐生女子高前・上菱団地行「群馬大学桐生正門前」下車（所要時間約15分）

太田地区



太田地区

東武鉄道太田駅北口下車、徒歩約10分（市立太田小学校となり）
北関東自動車道 太田桐生 IC から約10分

「ああ建学の」

■詞：梶田 一之 ■曲：相沢 聡 ■編曲：塚本 靖彦

- | | |
|--|---|
| <p>1. たからかに果てなく響く歌声は
青春の歡喜の調べ
山あをく水きよら
ああ秀麗の国土とあかるく
わが希望かがやく姿よ
群馬大学 群馬大学
われらの学苑</p> | <p>2. たくましく生気に充つる歌声は
青春の至情の調べ
血はたぎり 胸をどり
ああ将来の文化をきずくと
わが理想もえたつ思いよ
群馬大学 群馬大学
われらの学苑</p> |
| <p>3. とうとうと^{だい ち}大地をゆする歌声は
青春の叡智の調べ
^{たま}魂さやか ^{しん おう}眉さとく
ああ深奥の真理をみつむる
わが決意ゆるがぬ心よ
群馬大学 群馬大学
われらの学苑</p> | <p>4. すこやかに若やぎはづむ歌声は
青春の^{いのち}生命の調べ
^{あけ}暁しるし陽はいでて
ああ建学の理念のみちびく
わが前途あふるる光よ
群馬大学 群馬大学
われらの学苑</p> |



国立大学法人群馬大学徽章

昭和24年10月1日制定

周囲は群馬県の象徴である名勝赤城、榛名、妙義の上毛三山を浮彫りさせて大学を囲み、群馬大学の象徴としています。



国立大学法人群馬大学ロゴマーク

平成18年4月1日制定

群馬大学の英頭文字「G」をモチーフに緑と青で豊かな自然環境を示し、学生の成長と活躍をイメージして、新しい未来への創造と、社会へ貢献する大学の存在感を表現しています。



認証評価認定マーク

平成28年3月24日認定

独立行政法人大学評価・学位授与機構（現：大学改革支援・学位授与機構）による平成27年度実施の大学機関別認証評価において、「本学は、大学設置基準をはじめ関係法令に適合し、大学評価・学位授与機構が定める大学評価基準を満たしている」と評価されました。



発行日

平成30年5月発行

編集

国立大学法人群馬大学広報本部

〒371-8510 前橋市荒牧町四丁目2番地

TEL.027-220-7010、7011、7018 FAX.027-220-7012

URL:<http://www.gunma-u.ac.jp>

リサイクル適性[®]

この印刷物は、印刷用の紙へ
リサイクルできます。



UNIVERSITY
ACCREDITED
March 2016